

三木市

埋蔵文化財発掘調査報告書
—平成22～28年度—

平成31年(2019)3月

三木市教育委員会

三木市

埋蔵文化財発掘調査報告書
—平成22～28年度—

平成31年(2019)3月

三木市教育委員会

序

播磨東端部に位置する三木市は、加古川より分かれ市内を東西に貫流する美嚢川の豊かな恵みにより、太古より多くの人々が生活を営み、特色ある歴史や文化を育んできました。

今も市内の各所には、その傍証となる埋蔵文化財が数多く残っています。これら埋蔵文化財は、三木に生きた私たちの祖先が歩んできた足跡であり、その歴史や文化を解明するためにかけがえのない財産といえます。このように祖先の人々が残してきた貴重な埋蔵文化財を適切に保存・調査し、後世の人々に伝えていくことが私たちの重要な役目と考えています。

本書は、平成22～28年度に三木市教育委員会が実施した市内遺跡の発掘調査のうち、主に個人住宅・民間開発に伴い実施した確認調査を中心に、一部の工事立会を合わせて、調査成果を報告しています。この報告書が、三木の歴史の一端の解明に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、現地調査及び本書の作成にあたり、格段のご指導とご助言、ご協力をいただいた多くの関係者の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成31年3月

三木市教育委員会

例　言

- 1　本書は、平成 22～28 年度に三木市教育委員会が実施した市内遺跡の発掘調査の報告書である。本書では、主に個人住宅・民間開発に伴い実施した確認調査を中心に、一部の工事立会を合わせて、調査成果を報告している。
- 2　整理作業及び報告書作成は、市単独事業として、三木市教育委員会が平成 30 年度に実施した。
- 3　調査主体：三木市教育委員会。各年度における調査体制は、次のとおりである。

平成 22 年度

〔事務局〕 教育長　松本明紀、教育部長　篠原政次、文化スポーツ振興課長
　　松村正和、主査　廣井愛邦

〔調査担当〕 文化スポーツ振興課主任　小網豊、主事　金松誠

平成 23 年度

〔事務局〕 教育長　松本明紀、教育部長　椿原豊勝、文化スポーツ振興課長
　　松村正和、主査　廣井愛邦

〔調査担当〕 文化スポーツ振興課主任　小網豊、主事　金松誠

平成 24 年度

〔事務局〕 教育長　松本明紀、教育部長　椿原豊勝、文化スポーツ振興課長
　　松村正和、主査　廣井愛邦、主任　小網豊

〔調査担当〕 文化スポーツ振興課主事　金松誠

平成 25 年度

〔事務局〕 教育長　松本明紀、教育部長　山本公大、文化スポーツ振興課主
　　査　廣井愛邦

〔調査担当〕 文化スポーツ振興課長　松村正和、主事　金松誠

平成 26 年度

〔事務局〕 教育長　松本明紀、教育部長　山本公大、文化スポーツ振興課長
　　松村正和、主査　廣井愛邦

〔調査担当〕 文化スポーツ振興課主事　金松誠

平成 27 年度

〔事務局〕 教育長　松本明紀、教育企画部長　西本則彦、文化スポーツ振興
　　課長　堀内基代、主査　畠中剛

〔調査担当〕 文化スポーツ振興課主任　金松誠

平成 28 年度

〔事務局〕 教育長 松本明紀、教育企画部長 西本則彦、文化スポーツ振興
課長 堀内基代、主査 前田幹夫

〔調査担当〕 文化スポーツ振興課主任 金松誠

平成 30 年度

〔事務局〕 教育長 西本則彦、教育総務部長 石田英之、文化・スポーツ課
長 森本雅彦、係長 前田幹夫

〔調査担当〕 文化・スポーツ課主任 金松誠

- 4 本書の編集・執筆は、金松誠がおこなった。
- 5 遺物の実測は、舟坂祐香がおこない、挿図のトレースは金松誠・舟坂祐香・
木下公夫がおこなった。
- 6 遺物の写真撮影は、金松誠がおこなった。
- 7 本書に使用した地図は、三木市発行の 1/10000 及び 1/2500 都市計画図であ
る。
- 8 本書における方位・座標は、すべて世界測地系によるものを示す。方位は
座標北を表し、レベル高はすべて海拔高（T. P）を表す。
- 9 本書記載の遺物実測図の断面は、埴輪－白、須恵器－黒、陶磁器－灰とし
た。
- 10 発掘調査で得た出土遺物及び図面・写真は、三木市立みき歴史資料館にお
いて保管している。

目 次

序

例言

第1章 発掘調査の動向—平成22～28年度—

第1節 三木市の位置と環境	1
第2節 平成22～28年度の発掘調査	3

第2章 調査の成果（平成22年度）

第1節 三木城新城跡	7
------------	---

第3章 調査の成果（平成23年度）

第1節 細川館跡	10
第2節 下石野5号墳（愛宕山古墳）	12
第3節 三木城跡	23

第4章 調査の成果（平成24年度）

第1節 石野堂ノ前散布地	25
第2節 下石野上畠遺跡	27

第5章 調査の成果（平成25年度）

第1節 三木城跡	30
第2節 与呂木青葉台7号墳	32
第3節 三木城跡	34

第6章 調査の成果（平成26年度）

第1節 大塚出張遺跡	36
------------	----

第7章 調査の成果（平成27年度）

第1節 福井土壙H	38
第2節 大塚遺跡	45

第8章 調査の成果（平成28年度）

第1節 石野田中散布地	48
第2節 大村坊貝チ散布地	50
第3節 跡部川ノ上遺跡	52
第4節 吉田中ノ坪遺跡	54
第5節 鳥町遺跡	56
第6節 東這田前山散布地	58

図版

抄録

第1章 発掘調査の動向—平成22～28年度—

第1節 三木市の位置と環境

1 地理的環境

三木市のある兵庫県は、瀬戸内海から日本海に渡って広がる県域である。三木市は、兵庫県の南東部に位置する内陸の都市である。平成17年（2005）10月に北東に隣接する美嚢郡吉川町と合併し新たな三木市となっている。東及び南は神戸市、南西は加古郡稻美町、西は加古川市、北西は小野市、北は加東市、北東は三田市と境界を接している。近世以前の旧分国では、播磨国美嚢郡に属する。

三木市の地形は、市域の大部分を丘陵・台地・平野で占め、わずかな山地とからなる。市の東部は帝釈山地さらには六甲山地へと続き市の西部は丘陵や台地が広がる。これらの山地や丘陵に水源を発した美嚢川や支流である志染川・小川川・淡河川などの美嚢川水系は西流し、別所町正法寺付近で加古川に合流する。加古川は瀬戸内海に注ぎ、古くから河川交通が盛んであった。市域はこれらの河川によって形成された沖積平野及び河岸段丘からなる。

丘陵と台地は、市北東部の美嚢川より北の小野丘陵、美嚢川と小川川に挟まれた吉川丘陵、小川川と志染川に挟まれた細川丘陵、志染川の南に展開する志染丘陵、志染川上流の帝釈山地、市西部の美嚢川南岸より明石市・加古郡稻美町へ広がる東播台地の6つの地域に分けられる。これらの丘陵や台地、河川の浸食作用によって形成された開析谷を縫うように有馬道・明石道・兵庫道・姫路道などの陸上交通が発達してきた。

2 歴史的環境

三木市において、最も古く人間の行動が確認できるのは旧石器時代である。美嚢川を望む段丘上に位置する和田白長大神神社散布地、与呂木宮ノ元遺跡で後期旧石器時代のナイフ形石器が出土している。続く縄文時代は、志染町の窟屋1号墳の墳丘及びその崩落土の中から、縄文時代中期から晩期にかけての縄文土器が出土しているほか、戸田遺跡の土坑から後期初頭の縄文土器と石鏃が出土している。

弥生時代は、市西部の美嚢川北側丘陵で年ノ神遺跡や和田神社遺跡などの中期から後期にかけての集落が確認されている。また、美嚢川と志染川が合流する東側段丘や志染川南側段丘でも、与呂木宮ノ元遺跡や与呂木大畠遺跡、宿原岡ノ下遺跡、小戸田遺跡などの中期から後期の集落が確認されている。

古墳時代になると、台地や斜面地、段丘の至るところに中期から後期にかけて数多くの古墳が築かれるようになる。美嚢川と加古川の合流地点、市西

部の美囊川を望む南側及び北側丘陵、志染川の南側丘陵に集中している。前期には市内最大の全長 91m の前方後円墳である下石野 5 号墳（愛宕山古墳・三木市指定文化財）が築かれている。

『日本書紀』や『播磨国風土記』などによると、5 世紀後半、第 20 代の安康天皇が殺害されたあと、皇位をめぐる争いから逃れた市辺押磐皇子の二人の王子オケとヲケが日下部連意美に連れられ、志染の石室に身を隠し、縮見屯倉首忍海部造細目に仕えたとされている。のちに弟のヲケが第 23 代顯宗天皇に、兄のオケが第 24 代仁賢天皇に即位したとされている。これらの記述から、ヤマト政権の直轄地である屯倉が志染にあったこと、屯倉を管理する地方豪族が存在していたことがわかる。なお、中期から後期にかけては、年ノ神 6 号墳からは三角板革綴短甲、窟屋 1 号墳では金銅装单鳳環頭太刀柄頭が出土しており、ヤマト政権との繋がりが注目されている。

『播磨国風土記』によると、奈良時代の美囊郡には、高野里・枚野里・志染里・吉川里の四里があったことが確認できる。集落遺跡の志染中中谷遺跡では、墨書き土器が出土していることから、美囊郡衙の候補地の一つと考えられる。この時期には、三木の特色となる窯業生産が始まる。最盛期は 12 世紀の平安時代後期～鎌倉時代初期で、尊勝寺や鳥羽離宮などの院に関係する寺院や邸宅に瓦を供給していたことが確認されている。窯跡は、跡部・久留美・平井・与呂木・宿原・二位谷に分布している。

南北朝時代には、古代からの名刹の伝承をもつ高男寺廃寺跡より、「貞和二季」(1346) 銘の入った瓦が出土している。また、三木合戦時の付城跡と考えられる和田村四合谷村ノ口付城跡からは、「嘉暦二年」(1327) 銘の入った硯をはじめ、南北朝期の遺物が数多く出土していることから、暦応 2 年(1339)に南朝方の丹生山を北朝方の赤松氏が攻めるために集結した「志染軍陣」の可能性が指摘されている。

室町時代になると、赤松氏が播磨守護を務めている。赤松満祐によって 6 代將軍足利義教が殺害された嘉吉の乱により、山名氏にその座を奪われた。応仁の乱の後、赤松氏は播磨守護に復帰するが、やがて赤松氏に代わって実権を握っていくのは有力被官であった。その中の別所氏は、東播磨で勢力を持ち、則治が 15 世紀後半に三木を本拠地とし、三木城を築城したと考えられる。三木城は、本丸・二の丸・新城・鷹尾山城・宮ノ上要害からなる。本丸では二分する堀を確認し、二の丸からは備前焼大甕群や瓦葺き礎石建物跡、堀などの遺構を確認している。

中国地方への進出を図る織田信長は、毛利氏を攻める足掛かりとして天正 5 年(1577)に播磨攻めを家臣の羽柴秀吉に命じた。当初、別所氏の当主長治は織田方に味方していたが、同 6 年 3 月に織田方を離反し、毛利方に与した。織田方は三木城を攻略するために三木城の周囲に付城群を築いて包囲し、

兵糧攻めをおこなった。付城は毛利氏からの兵糧搬入を阻止するために、状況に応じて増やされ、約 40 の付城と南側の付城を繋ぐ土塁が築かれた。やがて、三木城内の兵糧が尽き、同 8 年 1 月 17 日、城主長治が自刃して開城した。

その後、三木城は織田・豊臣の支配下となり、秀吉の家臣が相次いで城主となつた。関ヶ原合戦後は、姫路城主池田氏の家臣が城主となって三木城は存続したが、江戸幕府による元和元年（1615）一国一城令の政策に伴つて、廃城となつた。

以後、城下の三木町は在郷町と性格を変え、江戸時代中期以降多くの大工職人が三木町に居住し、大工道具の需要が増えたことで金物職人も増加していき、金物の町として繁栄し現在に至つてゐる。

〈参考文献〉

- 兵庫県教育委員会 1999 『久留美・跡部窯跡群』 兵庫県文化財調査報告第 186 冊
2002 『年ノ神古墳群』 兵庫県文化財調査報告第 234 冊
2002 『和田神社遺跡』 兵庫県文化財調査報告第 238 冊
2009 『窟屋 1 号墳』 兵庫県文化財調査報告第 353 冊
2012 『吉田住吉山遺跡』 兵庫県文化財調査報告第 409 冊
- 三木市 1970 『三木市史』
- 三市教育委員会 2000 『三木市埋蔵文化財発掘調査概要報告書』 II 三木市文化研究資料第 14 集
2001 『三木市遺跡分布地図』 三木市文化研究資料第 17 集
2012 『三木城跡及び付城跡群総合調査報告書 総括編』 三木市文化研究資料第 25 集
2013 『三木市 平成 20・22・23 年度国庫補助事業による発掘調査報告書』 三木市文化研究資料第 26 集
2014 『大塚出張遺跡－特別養護老人ホームえびすの郷建設に伴う発掘調査報告書－』 三木市文化研究資料第 27 集
2015 『三木市 平成 24～26 年度国庫補助事業による発掘調査報告書』 三木市文化研究資料第 29 集
- 三木城跡及び付城跡群学術調査検討委員会 2010 『三木城跡及び付城跡群総合調査報告書』 三木市文化研究資料第 23 集 三市教育委員会

第 2 節 平成 22～28 年度の発掘調査

1 調査一覧

当該年度における発掘調査件数は 36 件で、その内訳は工事立会 9 件、確認調査 25 件、本発掘調査 2 件である。詳細は、表 1 のとおりである。

表1 埋蔵文化財発掘調査実施状況一覧（平成22～28年度）

(平成22年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の要因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
	六村谷接道跡	立会	大村200～1189	ガス管敷設工事	H22.4.26～5.10	12m ²	なし	瓦忠器・陶器	工事実施		小網 雄
	平田西山接道跡	立会	平田447-1、127-1他	ガス管敷設工事	H22.4.26	5.2m ²	なし	瓦忠器	工事実施		小網 雄
1	三木城新城跡（4次）	確認	大の丸町757-1他	個人住宅の新築工事	H22.7.19～7.26	80m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
	三木城跡	立会	大の丸町13～3地	不要ガス管の撤去工事	H22.8.4	3.1m ²	なし	なし	工事実施		金松 雄
	大塚山接道跡（1次）	確認	大塚字石井206地	特別施設老人ホームの建設工事	H22.10.21	44m ²	柱穴、土河代道構	瓦忠器・瓦忠器	本発掘調査	三木市教委2014	金松 雄
	朝原大池1号池跡、朝原大池2号池、宿原大池跡（1次）	確認	日出が丘本町1-1号	府原大池改修	H22.11.15～12.2	61.5m ²	柱穴、残壁の確認 瓦忠器・瓦・瓦盤	慎重工事	三木市教委2013	金松 雄	
	大塚山池跡（2次）	立会	大塚字石井206地	特別施設老人ホームの建設工事	H23.1.11～2.26	931m ²	柱穴、礎、土質 瓦忠器・瓦・瓦盤	工事実施	三木市教委2014	金松 雄	
	大塚山ノ引石造跡跡B・C（5次）	確認	福井字三木206地-1	産業施設跡確認調査	H23.3.8～3.24	71.5m ²	土壌、廃土堆积	瓦忠器・土罐器	現状保存	三木市教委2013	金松 雄

(平成23年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の要因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
2	揖川跡跡（2次）	確認	揖川町名様字山手旁625・1153	個人住宅の建設工事	H23.5.10	7.5m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
	三木城跡	立会	大明2-1229-9	個人住宅の建設工事	H23.6.3	42.7m ²	なし	なし	工事実施		小網 雄
	吉木大山村接道跡・森木大山土器A（1次）	確認	別所町高木字大山三木山林465	重要施設跡確認調査	H23.11.7～11.28	85m ²	礎、山輪墓土	瓦忠器	現状保存	三木市教委2013	金松 雄
	朝原土器	立会	笠原字美田山1268-82	アンテナ施設用地整備	H23.12.5	1.5m ²	なし	なし	工事実施		金松 雄
3	下石野5号構（蒙岩山古墳）D構	確認	別所町下石野字蒙岩山629, 629, 631, 634	教室館整備工事	H23.12.19～H24.1.10	13m ²	埋立部	瓦忠器	慎重工事	本店	金松 雄
4	三木城跡（1次）	確認	大の丸町3-4	琴絃垣跡の新築工事	H24.2.10	11m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
	二阶堂裏付接道跡（1次）	確認	さつき台2丁目（さつきなみ地）	重要施設跡確認調査	H24.2.13～3.3	72m ²	礎、土壤	瓦忠器	現状保存	三木市教委2013	金松 雄

(平成24年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の要因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
5	石野堂下前段古墳（1次）	確認	別所町石野字屋ノ前629, 637-5	個人住宅の新築工事	H24.5.16	8.4m ²	なし	瓦忠器・瓦忠器	慎重工事	本店	金松 雄
	薄瀬山台・下村城跡（1次）	確認	解部字喜農ノ谷287-1他	重要施設跡確認調査	H25.2.18～3.12	47m ²	礎、土壤	瓦忠器・土罐器 瓦・瓦盤	現状保存	三木市教委2013	金松 雄
6	下右野子城跡（1次）	確認	別所町下右野子上62947-5	個人住宅の新築工事	H25.3.27	1.5m ²	ピット	瓦忠器	立会調査	本店	金松 雄

(平成25年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の要因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
7	三木城跡（2次）	確認	大の丸町3-4	個人住宅の建設工事	H25.4.10	4m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
8	千布野子接道跡（1次）	確認	別所町千布野字上塚647、647-1-1、651-4、651-5-2-1～3	個人住宅の新築工事	H25.4.16	51.5m ²	ピット	なし	工事実施	本店	金松 雄
	三木城跡	立会	大の丸町47-6	個人住宅の新築工事	H25.5.20	13.5m ²	なし	なし	工事実施		金松 雄
9	寺吉木青窯跡7号窯（1次）	確認	厚木字寺吉木越683-394	個人住宅の新築工事	H25.9.25	8.9m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
10	三木城跡（3次）	確認	大の丸町940-3	個人住宅の建設工事	H25.12.3	1.1m ²	なし	なし	慎重工事	本店	松村正和
	朝原城跡（1次）	確認	別所町1088-2、1036-4	駐車場造成工事	H25.12.12～H26.1.6	28m ²	礎	瓦忠器・土罐器、瓦盤器	慎重工事	三木市教委2013	金松 雄
	吉木陳屋跡	立会	別所町吉木682	ガス管敷設工事	H26.2.24～3.25	18.01m ²	なし	なし	工事実施		金松 雄
	中井山土上付植跡（1次）	確認	厚木字大山381-4、381-5、厚木字見谷834-43	史跡内部確認調査	H26.3.25～3.31	47m ²	ピット、土壁、陶器器、鉄器	瓦忠器	現状保存	三木市教委2013	金松 雄

(平成26年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の要因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
11	大塚山接道跡（3次）	確認	大塚字石井218-3他	細谷病院の新築工事	H26.7.31	18m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
	手井山土上付植跡（1次）	確認	厚木字大山381-23、厚木字見谷834-32	史跡内部確認調査	H26.11.27～H27.1.5	41m ²	土壌、瓦砾状地質	陶器器	現状保存	三木市教委2013	金松 雄

(平成27年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の要因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
11	朝井土里II（1次）	本採掘	朝井字千代2352-2375	資材販易の要築工事	H27.4.7～4.20	50m ²	土壌、礎	瓦	一部探査	本店	金松 雄
12	大塚遺跡	立会	大塚2丁目388-1、388-2、388-3、388-4	街舗内造成・更築工事	H27.11.25	8.6m ²	なし	瓦忠器・土罐器	工事実施	本店	金松 雄

(平成28年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の要因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
13	石野田中激布地（1次）	確認	別所町石野字大道842-2	個人住宅の建設工事	H28.6.14	3.15m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
14	六村坊貝子殿布地（1次）	確認	大村字舟戸934-4、935-2、936-1、936-3	長屋住宅の新築工事	H28.8.10	8m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
15	厚木川字玉造跡（1次）	確認	厚木字川之108-59、94-64、66-68、77-81、96-97、98-100、101-102、108	道路拡幅工事	H28.10.31	10.5m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
16	吉田中字坪造跡（1次）	確認	吉田字吉田字塚158	事務所併用住宅の建築工事	H28.11.28	9m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
17	白町造跡（1次）	確認	白町字酒呑374-2	個人住宅の建設工事	H28.12.18	9m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄
18	東畠田前山附布地（1次）	確認	別所町対岸田字前山713-1、713-2	個人住宅の建設工事	H29.3.12	4m ²	なし	なし	慎重工事	本店	金松 雄

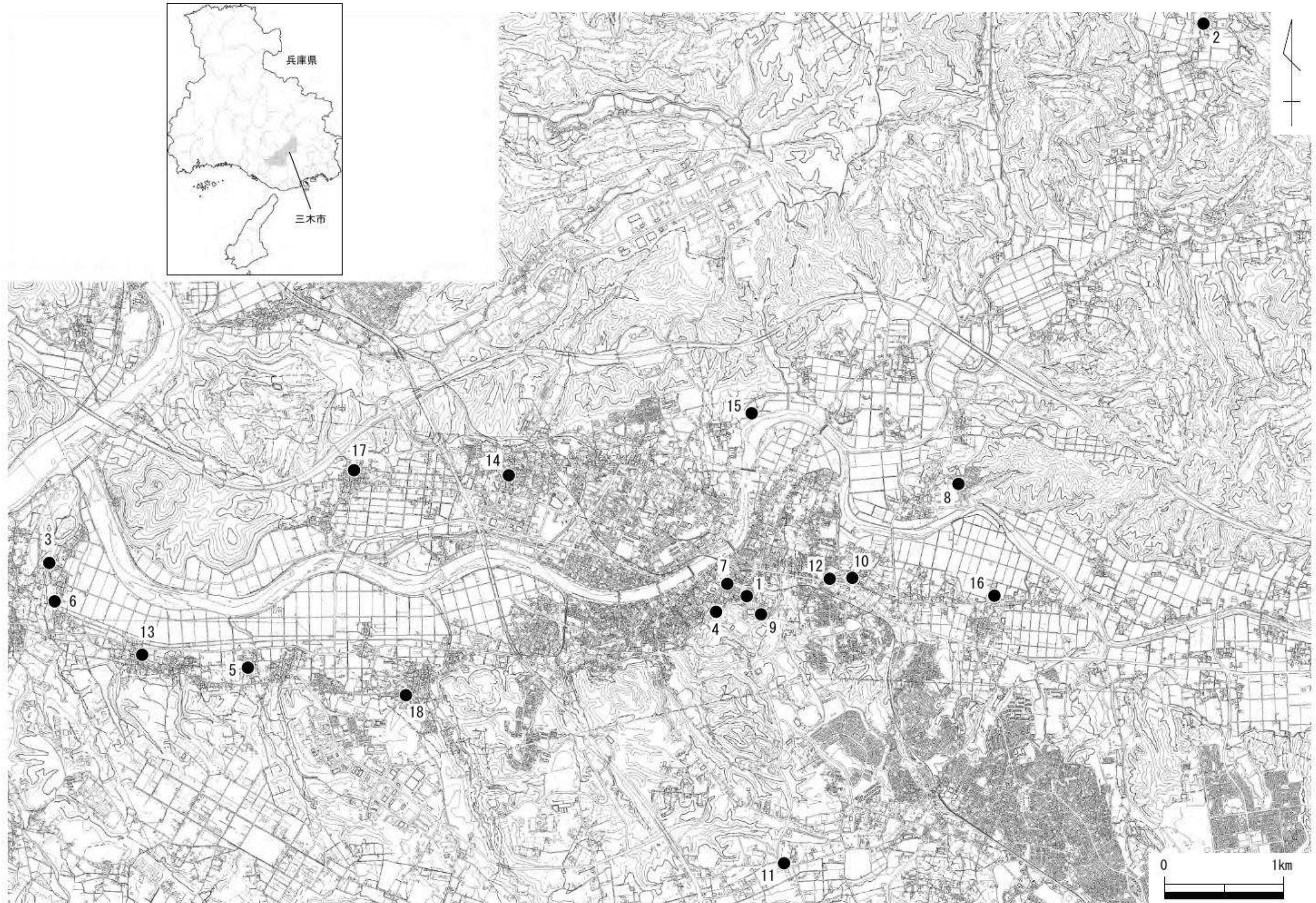


図1 調査位置図

第2章 調査の成果（平成22年度）

第1節 三木城新城跡

1 所在地

三木市上の丸町 875-35 他

2 調査の原因

個人住宅の新築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成22年7月19日～26日

6 調査面積

90 m²

7 調査の方法

事業地内において、布基礎工法による掘削部等における遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図3～5）

当遺跡は、戦国時代～江戸時代初頭に存続した三木城跡を構成する曲輪群の一つである。天正6年（1578）～8年にかけて織田信長と三木城主別所長治の間で行われた三木合戦では、長治の叔父賀相が新城を守備した。

当該地は、昭和60・61年度に3次にわたり調査した箇所（金松他2010）の南側隣接地である。T1は、工事掘削深度が約20～30cmであったため、遺構面には達しなかった。T2は、すでに道路工事によって、搅乱を受けている。よって、各トレンチにおいて、遺構・遺物は確認できなかった。

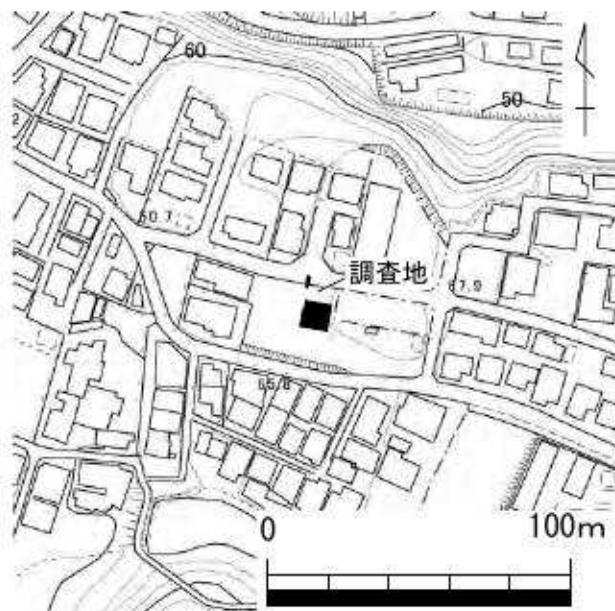


図2 位置図

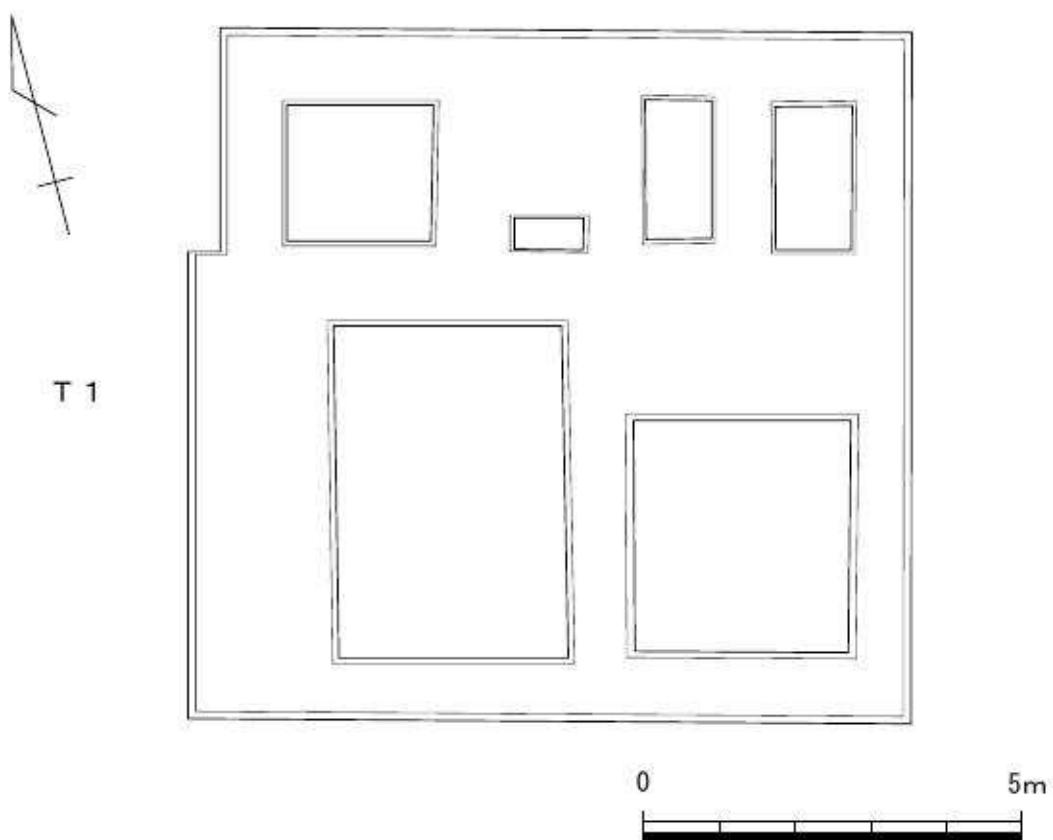
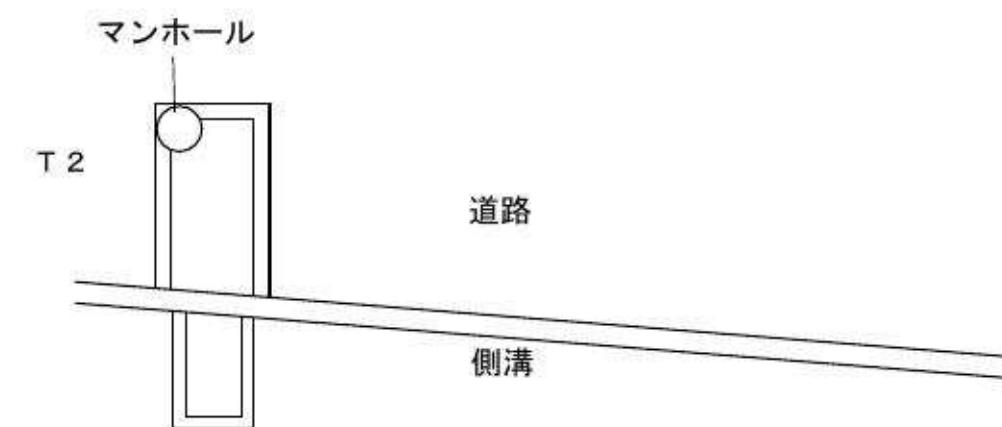
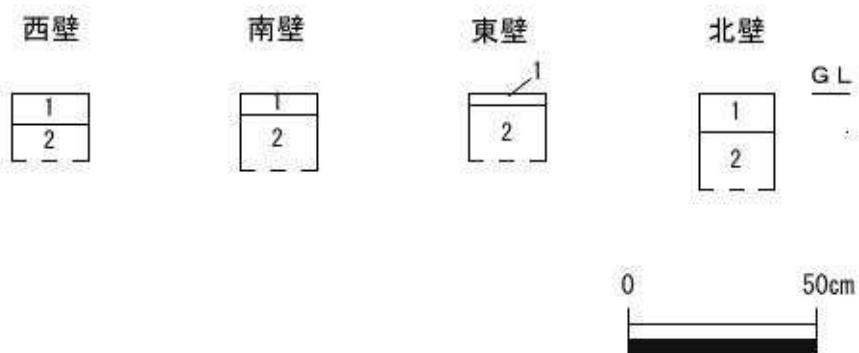
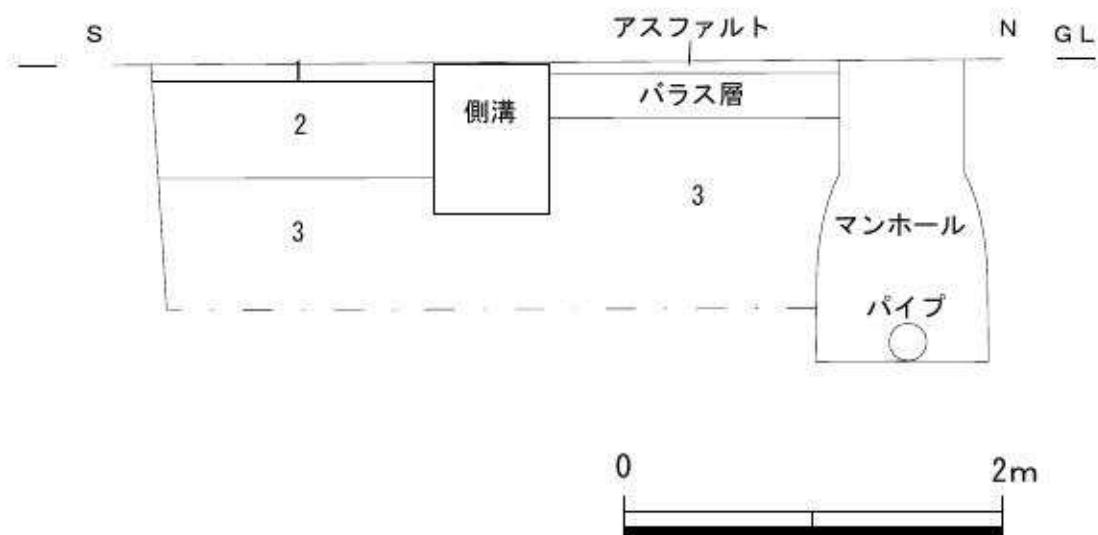


図3 平面略図



- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土 (2mm程の礫含む) 〈表土〉
2 2.5Y6/6 明黄褐色砂礫 (10~20cm程の礫を密に含む) 〈現代整地土か〉

図4 T1土層柱状図



- | | | | |
|---|---------|--------------------|--------|
| 1 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色砂質土（2mm程の礫を含む） | （表土） |
| 2 | 10YR5/6 | 黄褐色砂質土 | （側溝掘形） |
| 3 | 2.5Y5/4 | 黄褐色砂礫 | （客土） |

図5 T2土層断面略図

第3章 調査の成果（平成23年度）

第1節 細川館跡

1 所在地

三木市細川町高篠字山キワ
625番・1153番

2 調査の原因

個人住宅の建築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成23年5月16日

6 調査面積

7.5 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1m×7.5mの調査トレーニチを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図7）

当遺跡は、戦国時代に下向した細川荘の領主冷泉家の居館跡と伝わる。東西140m・南北40mの規模を持つと考えられているが、詳細は不明である。今回の調査では、調査トレーニチ北半において、谷状地形に近年の耕作土の堆積が確認できたにすぎず、遺構・遺物は確認できなかった。

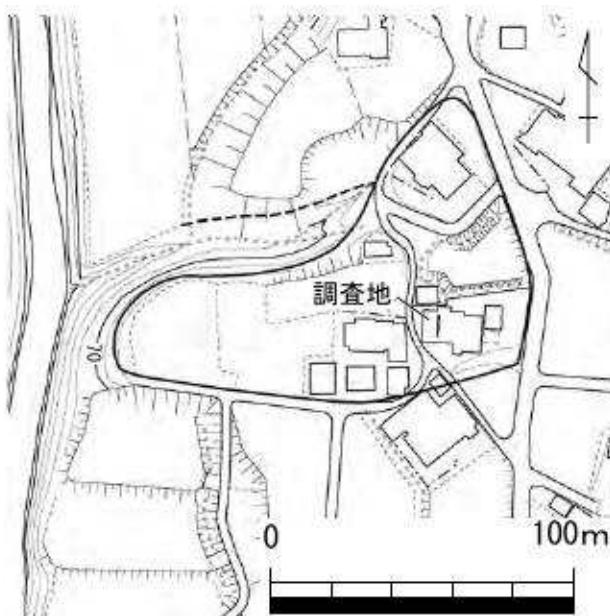
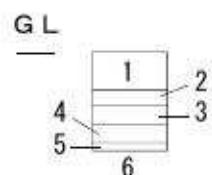
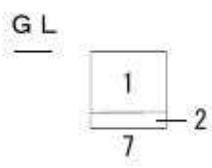


図6 位置図



0 2m

南壁 北壁



0 50cm

1	客土		
2	10YR5/3	にぶい黄褐色粘質土	〈耕作土〉
3	10YR5/6	黄褐色粘質土	〈床土〉
4	10YR5/4	にぶい黄褐色粘質土	〈耕作土〉
5	10YR5/6	黄褐色粘質土	〈床土〉
6	10YR4/3	にぶい黄褐色粘質土	〈耕作土〉
7	10YR5/8	黄褐色粘質土 (固く締まる)	〈地山〉

図7 遺構平面図・土層柱状図

第2節 下石野5号墳（愛宕山古墳）

1 所在地

三木市別所町下石野字高山 826、829、831、834

2 調査の原因

散策路整備工事

3 事業者

三木市教育委員会

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成23年12月19日～平成24年1月10日

6 調査面積

13 m²

7 調査の方法

事業地内の散策路設置部分において、遺跡の内容を確認するため、1m×3～4mの調査トレンチを4本設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

トレンチの位置図・遺構平面図は委託し、トータルステーション測量を行った。

8 調査の結果（図8・10・11）

(1) 愛宕山古墳の概要

当古墳は、別所町西端の丘陵に存在する下石野古墳群に属し、兵庫県下で10番目の大きさと考えられている前方後円墳である。平成15年3月に大阪市立大学が主体となり、測量調査が実施された。それによると、規模は全長約91m、後円部直径約53m、前方部の長さ約35m、前方部の幅約40m、後円部の高さ約9m、前方部の高さ約5mを測る。古墳各部の長さ

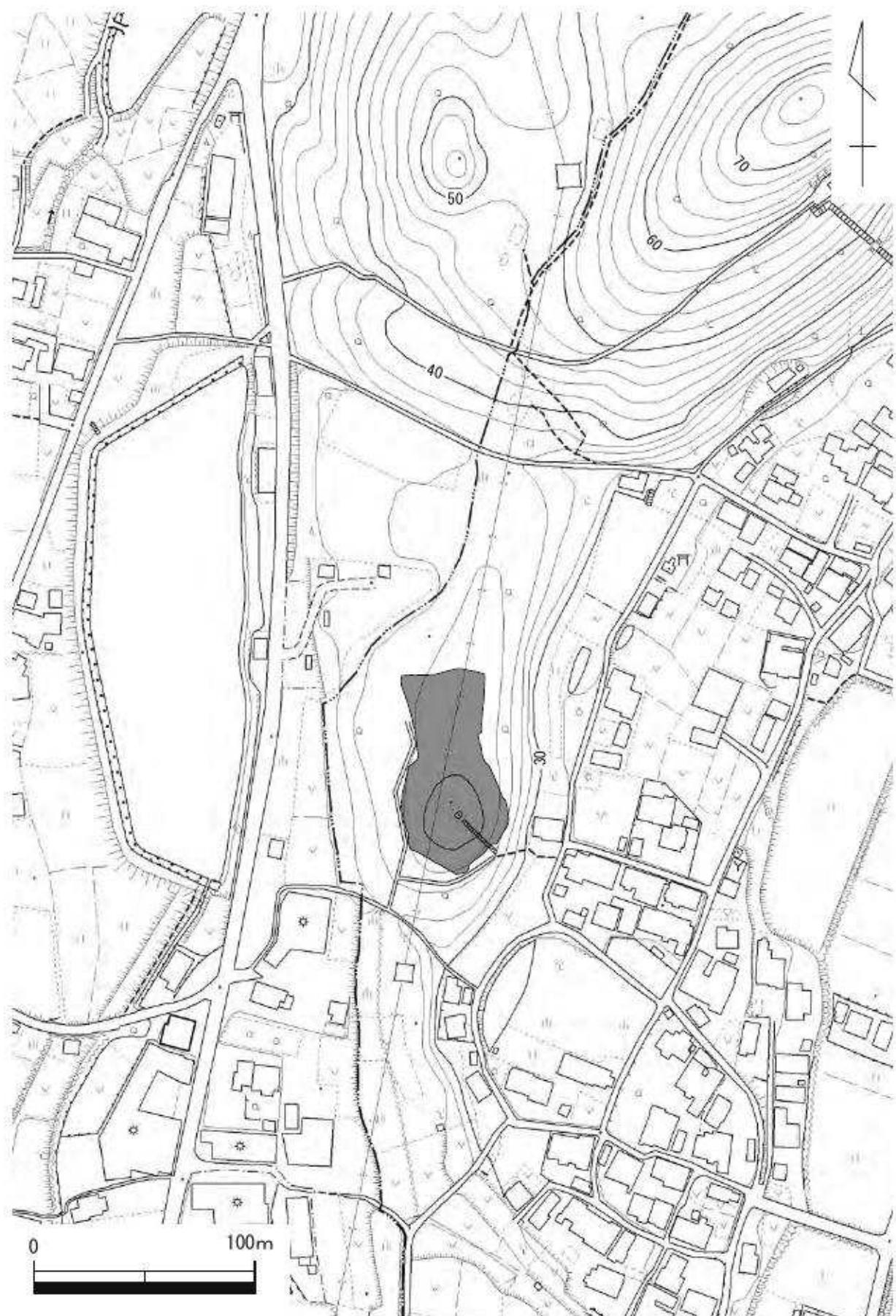


図8 愛宕山古墳 位置図

の比率が奈良市の佐紀陵^{さ・きみささぎやま}山古墳（垂仁天皇妃・日葉酢媛命^{ひばすひめのみことりょう}陵）とよく似ていることから、愛宕山古墳の被葬者はヤマト政権との結びつきがあつたと考えられている（岸本 2005）。

(2) 各トレチの調査結果

① T 1 (図 12)

造り出しの有無を明らかにするため、前方部と後円部のくびれ部に設定した。

表土直下で明黄褐色砂礫の地山面となり、遺構は確認できなかった。

戦時中の対空高射砲整備に伴い削平を受けたものと判断できる。

② T 2 (図 13)

測量調査により推定されている墳丘裾部の状況を確認するために設定した。

T 1 同様上面が削平を受けているものの、明赤褐色砂質土の地山を削り出した上で明褐色砂質土の盛土によって墳丘裾部が形成されていることが明らかになった。墳丘基底部裾付近において、ピット及び裾に沿う溝状遺構を検出した。葺石転落石とみられる石がまばらに含まれている。

③ T 3 (図 14)

測量調査により推定されている墳丘裾部の状況を確認するために設定した。

上面が削平を受けているが、やや固く締まる礫混じりの黄褐色及び明褐色砂質土で構成される一連の層（9～13 層）がみられる。墳丘崩落土の可能性が高いものの、墳丘盛土の可能性も否定しきれないため、この層の上面を検出面としたが、最終的には墳丘崩落土と判断した。その上層（5～7 層）はやや軟質な褐色及び黄褐色砂質土であり、葺石転落石とみられる石が密に含まれる。地山は礫を密に含む明黄褐色砂質土であり、固く締まる。

④ T 4 (図 15)

墳丘から離れた位置における遺構の有無を確認するために設定した。

葺石転落石とみられる石を密に含む墳丘崩落土（オリーブ褐色砂質土）の層を確認したものの、地山面からは遺構は検出されなかった。地山までの深さが約 40 cm と浅いことから、後世に削平を受けた可能性が高い。

(4) 出土遺物

① 円筒埴輪（口縁部）（図9-1）

T3表土から出土したものである。内外面ともに摩耗が著しい。

② 円筒埴輪（突帯部）（図9-2）

T3墳丘崩落土から出土したものである。細片のため、天地も不明である。外面は突帯がはがれている。内面はヨコハケが施されている。

表2 出土遺物観察表

番号	トレンチ	遺構名	遺物名	器種(部位)	色調	胎土	焼成	法重(cm)(ノハズ存査値)		形態的特徴・調整など
								口径	幕高	
1	T3	表土	円筒埴輪	口縁部	外面:10YR5/6 黄褐色 内面:10YR5/4 にぶい黄褐色	密 1mm以下の白色砂粒を含む	良	—	(6.0)	外面:不明 内面:不明、凹状のへこみは後世のものか
2	T3	墳丘崩落土	円筒埴輪	突帯部	外面:5YR7/3 にぶい橙 内面:7.5YR7/1 明褐灰	やや密 1mm以下の白色・黒色砂粒を含む	良	—	(3.9)	外面:不明 内面:ヨコハケ

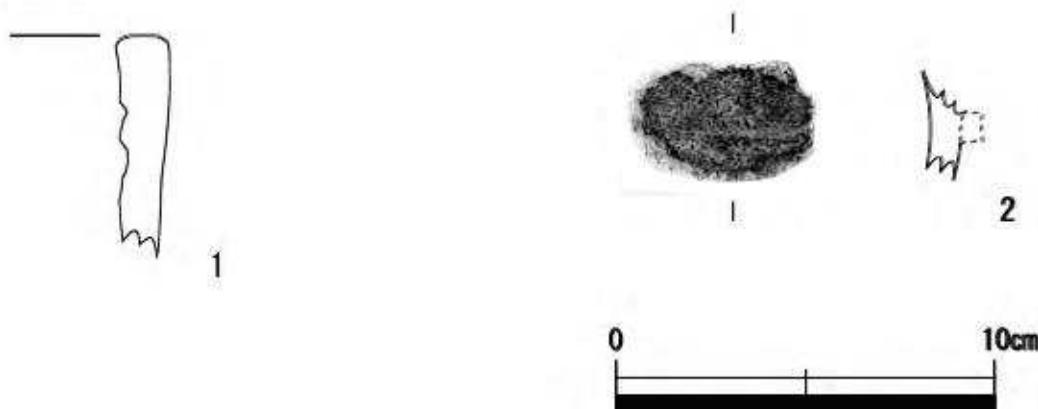


図9 出土遺物 (S=1/2)

(4) まとめ

今回の調査により、当初想定通り周濠が設けられていないことが明らかとなった。主に丘陵の切り盛りによる整形によって造成されたといえる。造り出しも検出されなかった。T2において、明確な墳丘基底部が検出され、裾部の造成の一端が部分的に明らかとなった。これにより、後円部直徑約55mと復元できることになった。

円筒埴輪片がわずかに出土したが、明確な時期は判断できなかった。今後、表採資料も含めて古墳の時期を明らかにしていく必要がある。

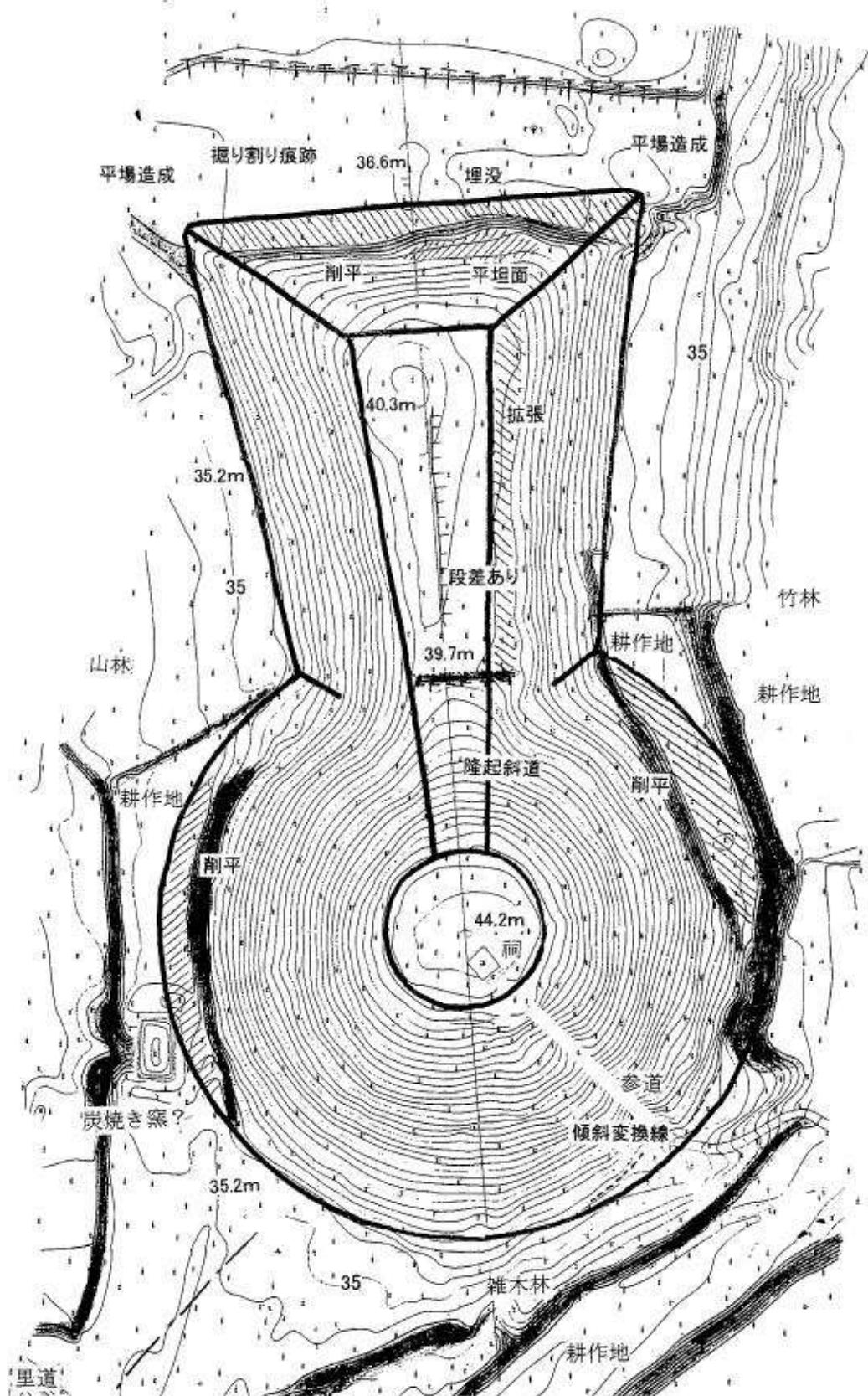


図 10 愛宕山古墳の墳丘復元と改変 1/550 (岸本 2005 より転載)

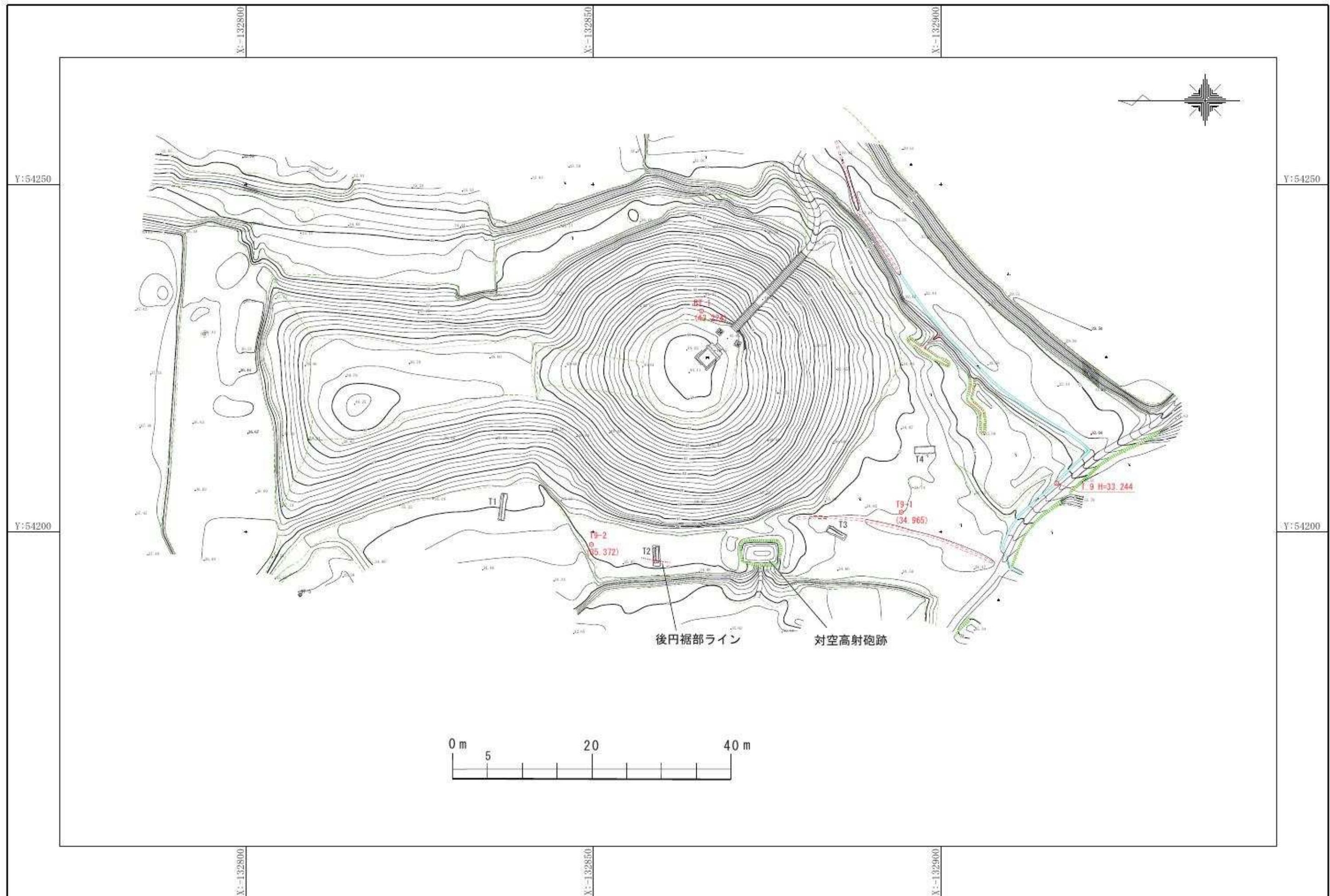


図 11 愛宕山古墳 測量図（大阪市立大学作成図を一部加筆）

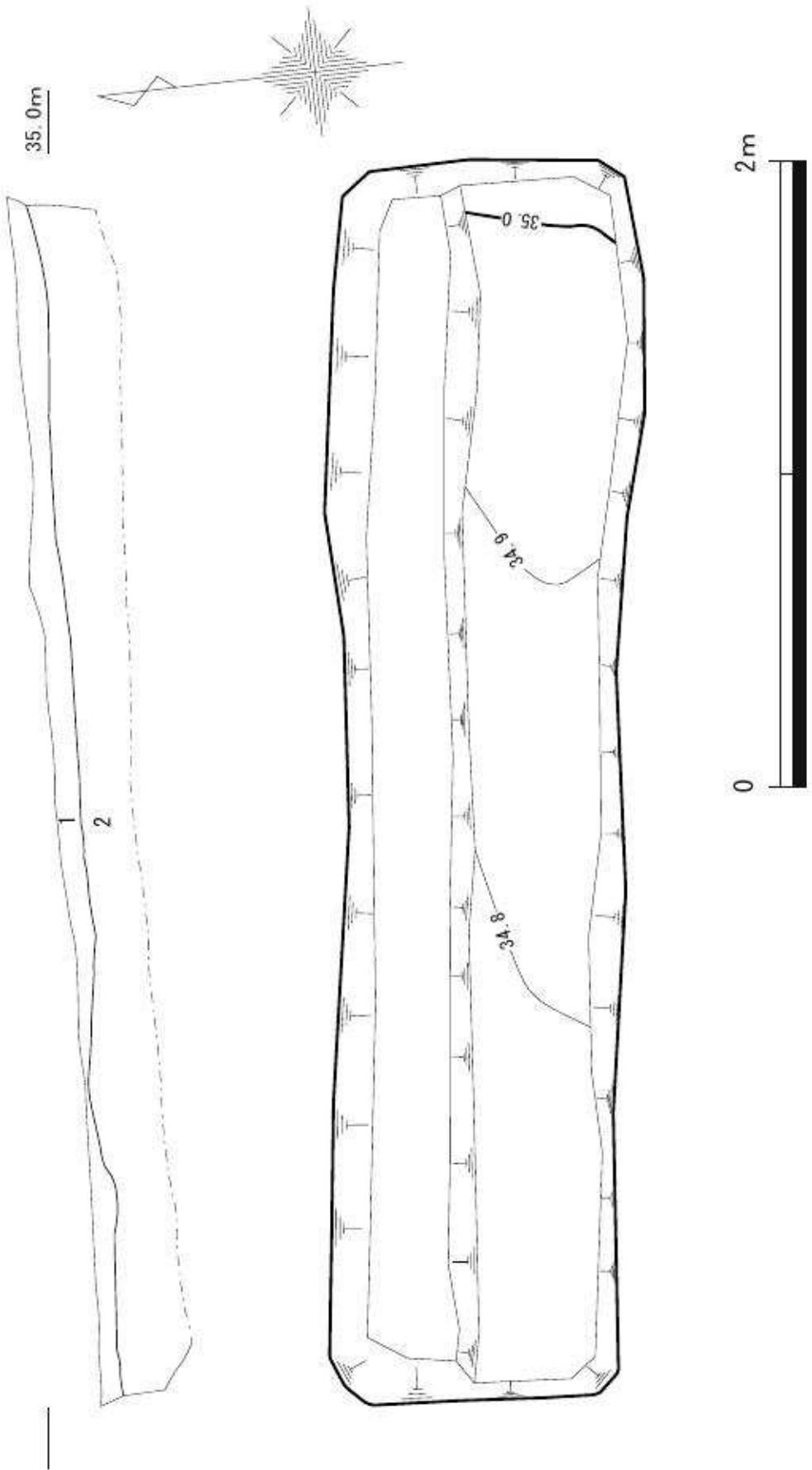
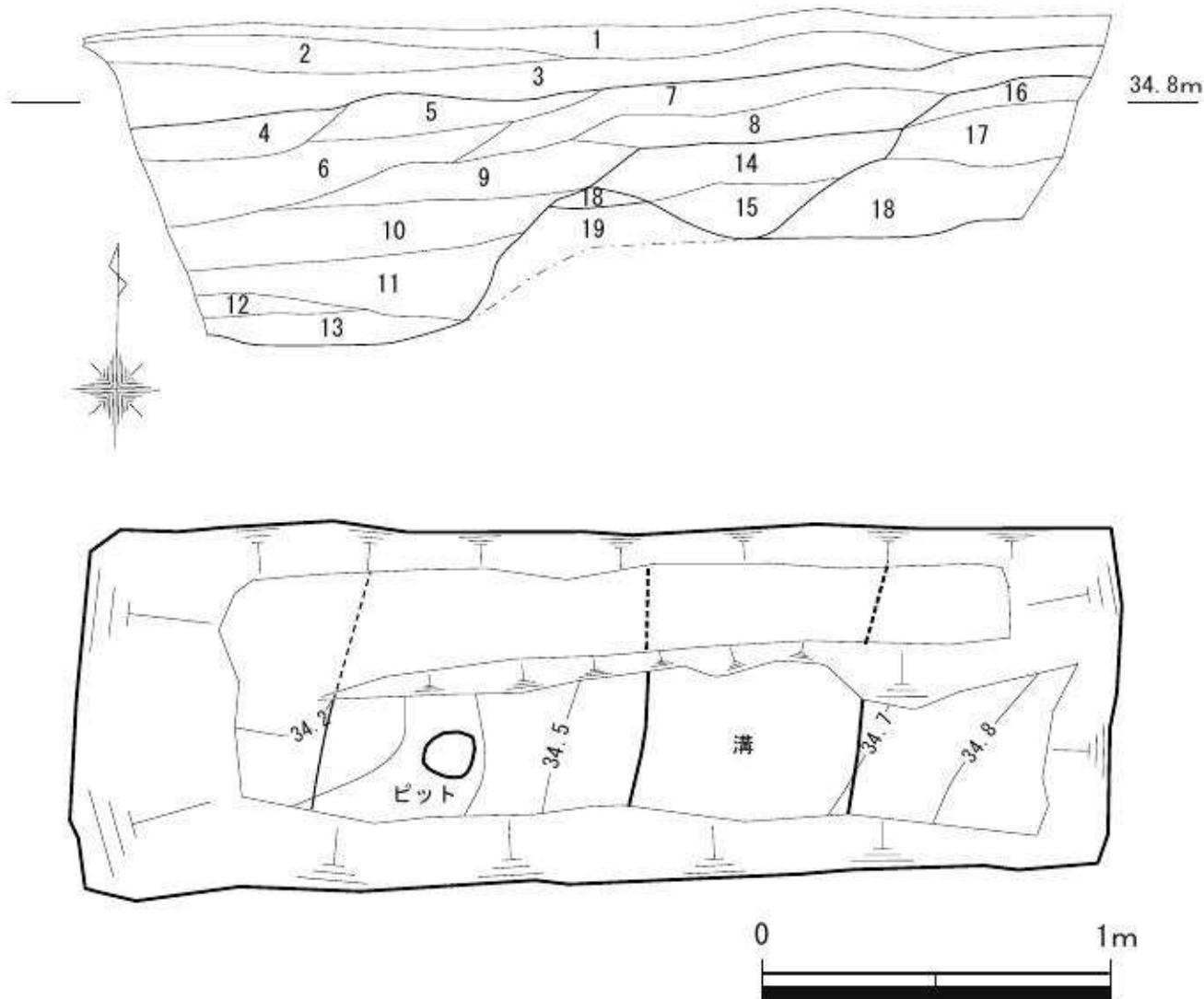


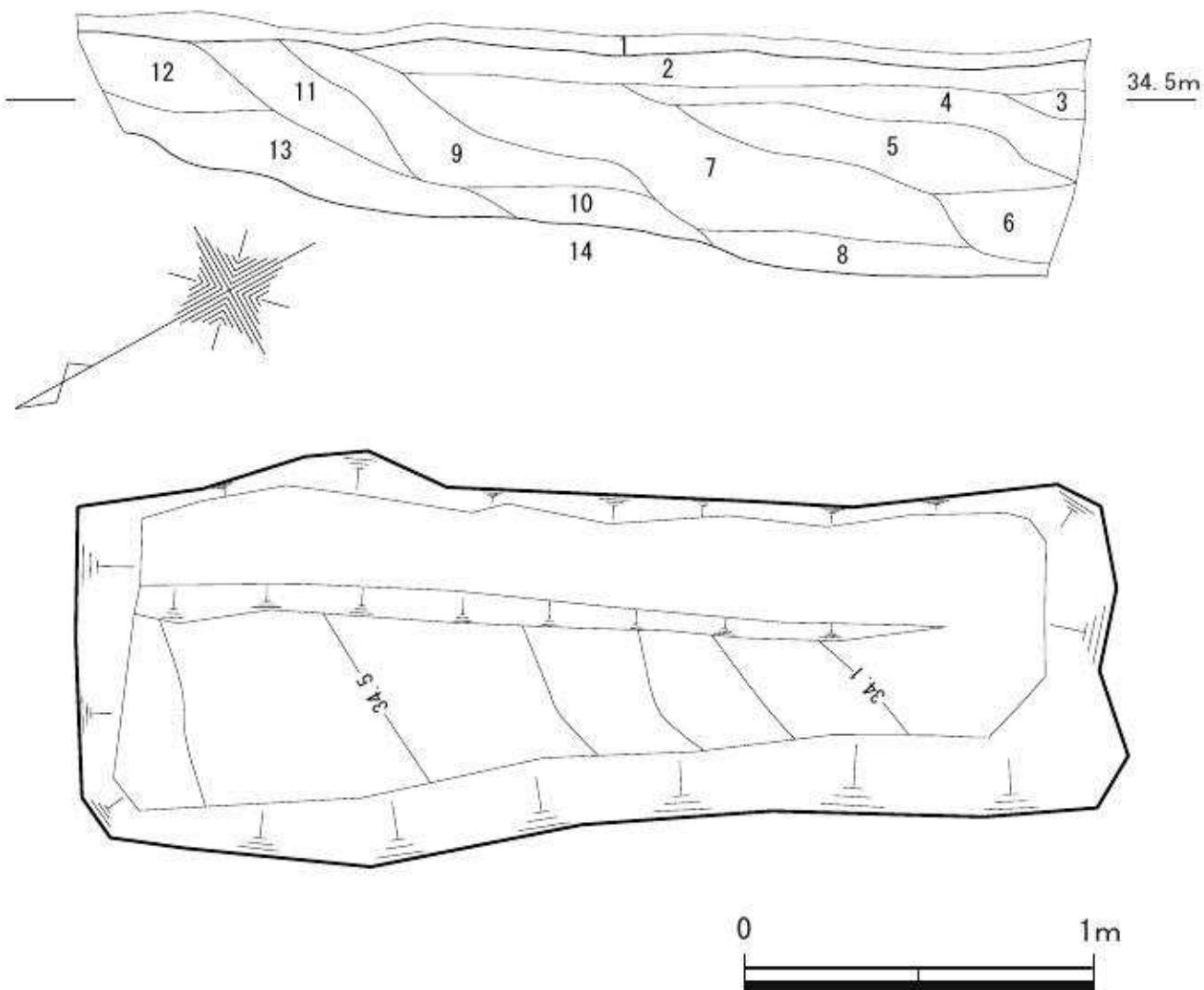
図12 T 1 平面・断面図



1	表土			
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色砂質土 (やや軟質、2~5mm程の礫をまばらに含む)		
3	2.5Y4/6	オリーブ褐色砂質土 (やや軟質、5mm~2cm程の礫をまばらに含む)		{(堆積土)}
4	10YR5/6	黄褐色砂質土 (1~10cm程の礫を密に含む)		
5	2.5Y5/6	黄褐色砂質土 (1~5cm程の礫をまばらに含む)		
6	2.5Y5/4	黄褐色砂質土 (やや軟質、1~5cm程の礫をまばらに含む)		
7	2.5Y5/6	黄褐色砂質土 (1~3cm程の礫をまばらに含む)		
8	2.5Y5/6	黄褐色砂質土 (3~5cm程の礫をまばらに含む)		
9	10YR5/6	黄褐色砂質土 (3~5cm程の礫をまばらに含む)		{(墳丘崩落土)}
10	10YR5/8	黄褐色砂質土 (1~10cm程の礫をまばらに含む)		
11	10YR5/6	黄褐色砂質土 (2~5cm程の礫をわずかに含む)		
12	7.5YR5/6	明褐色砂礫 (2~5cm程の礫主体)		
13	7.5YR5/6	明褐色砂質土 (固く締まる、1cm程の礫を密に含む)		
14	10YR5/6	黄褐色砂質土 (3~7cm程の礫を密に含む)		{(溝状遺構)}
15	10YR5/8	黄褐色砂質土 (3~7cm程の礫を密に含む)		
16	7.5YR5/6	明褐色砂質土 (固く締まる、3cm程の礫を密に含む)		
17	7.5YR5/8	明褐色砂質土 (固く締まる、2~10cm程の礫を密に含む)		{(墳丘盛土)}
18	7.5YR5/8	明褐色砂質土 (固く締まる、2~10cm程の礫を密に含む)		
19	5YR5/8	明赤褐色砂質土 (固く締まる、5mm~5cm程の礫を密に含む)		{(地山)}

*ピットは 10YR5/6 黄褐色砂質土

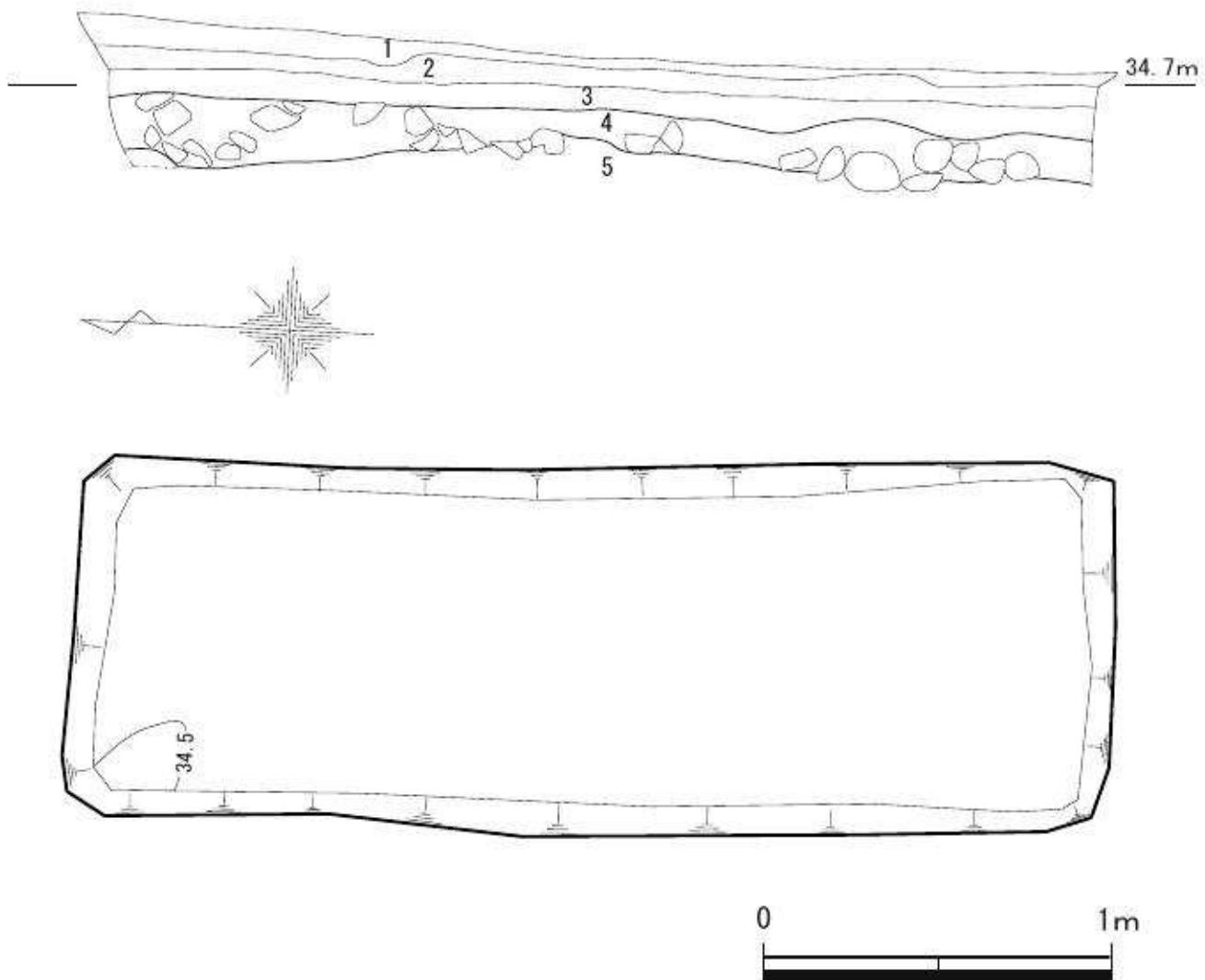
図13 T2 平面・断面図



1	表土			
2	2.5Y4/6	オリーブ褐色砂質土	(5mm~2cm程の礫をまばらに含む、1を粒状に含む)	<堆積土>
3	7.5YR5/6	明褐色砂質土	(1~10cm程の礫をまばらに含む)	
4	10YR5/4	にぶい黄褐色砂質土	(やや軟質、2~5cm程の礫をまばらに含む)	
5	10YR4/4	褐色砂質土	(やや軟質、5~20cm程の礫を密に含む)	
6	10YR5/6	黄褐色砂質土	(5~20cm程の礫を密に含む)	
7	10YR5/6	黄褐色砂質土	(やや軟質、2~10cm程の礫を密に含む)	
8	10YR5/8	黄褐色砂質土	(1~3cm程の礫をまばらに含む)	
9	10YR5/6	黄褐色砂質土	(やや固く締まる、1~5cm程の礫をまばらに含む)	
10	10YR5/8	黄褐色砂質土	(やや固く締まる、5mm~2cm程の礫をまばらに含む)	
11	7.5YR5/6	明褐色砂質土	(やや固く締まる、1~5cm程の礫をまばらに含む)	
12	7.5YR5/8	明褐色砂質土	(固く締まる、1~3cm程の礫をまばらに含む)	
13	7.5YR5/6	明褐色砂質土	(やや固く締まる、1~3cm程の礫をまばらに含む)	
14	10YR6/8	明黄褐色砂質土	(固く締まる、1~8cm程の礫を密に含む)	

(地山) (墳丘崩落土)

図14 T 3 平面・断面図



- 1 表土
 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
 3 2.5Y5/4 黄褐色砂質土 (1~5cm程の礫をまばらに含む)
 4 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂質土 (3~15cm程の礫を密に含む)
 5 10YR6/8 明黄褐色砂質土 (2~20cm程の礫を密に含む)
- } <堆積土>
 } <墳丘崩落土>
 } <地山>

図 15 T4 平面・断面図

第3節 三木城跡

1 所在地

三木市上の丸町9番4号

2 調査の原因

写経道場の新築工事

3 事業者

雲龍寺

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成24年2月10日

6 調査面積

11 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、3ヵ所に調査トレンチを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図17・18）

雲龍寺は、戦国時代～江戸時代初頭に存続した三木城内に位置する。

T1は、客土とバラスによって盛土造成されており、地山面において遺構は確認できなかった。T2は、客土とバラスによって盛土造成されており、バラス面を切り込むかたちで南北方向に走る現代の溝が検出された。なお、地山面は工事掘削深度よりさらに深くなることから、検出していない。T3は、客土とバラスによって盛土造成されており、地山と考えられる面を検出したが、遺構は確認できなかった。以上、遺構・遺物は確認できなかった。

事業地内は、近現代における既存施設に伴う工事によって盛土造成されており、搅乱を受けた可能性も高いことから、遺構はないものと判断できる。

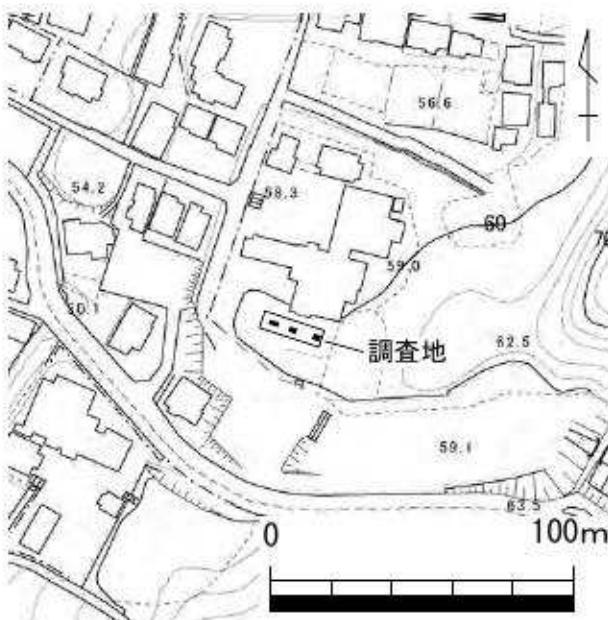


図16 位置図

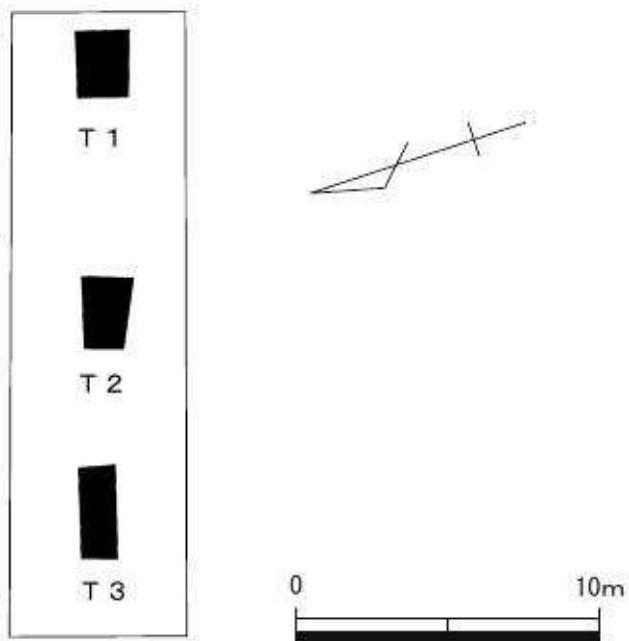
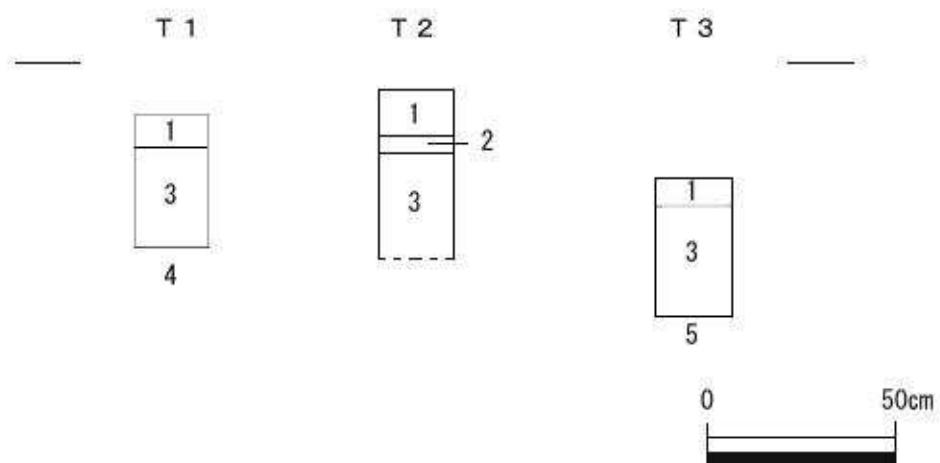


図17 トレンチ配置図



- 1 客土
- 2 客土（シルト質）
- 3 バラス
- 4 10YR6/8 明黄褐色砂質土 (固く締まる) (地山)
- 5 10YR7/3 にぶい黄橙色砂質土 (2~5cm程の礫を密に含む、固く締まる) (地山もしくはバラス)

図18 トレンチ東壁土層柱状図

第4章 調査の成果（平成24年度）

第1節 石野堂ノ前散布地

1 所在地

三木市別所町石野字堂ノ前 556・
557-3

2 調査の原因

個人住宅の増築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成24年5月16日

6 調査面積

3.4 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、2ヵ所に調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図20・21）

当遺跡は、平安時代の散布地とされている。

T1は、客土によって盛土造成されており、その下層に耕土が確認できた。耕土上面において、土師器・須恵器の細片が出土した。

一段低いT2は、客土によって厚く盛土造成されていたことが判明した。

以上、事業地内は近現代における既存施設に伴う工事によって、盛土造成されており、工事掘削深度内において遺構は確認できなかった。

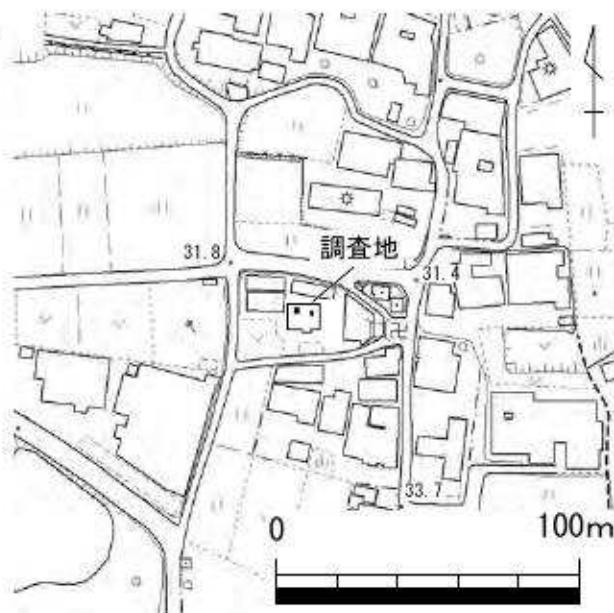


図19 位置図

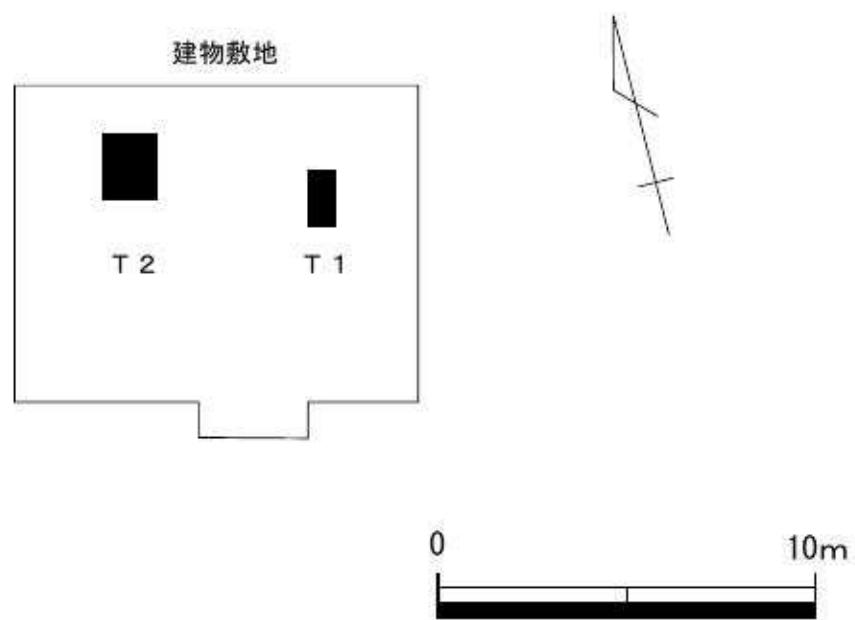


図20 トレンチ配置図

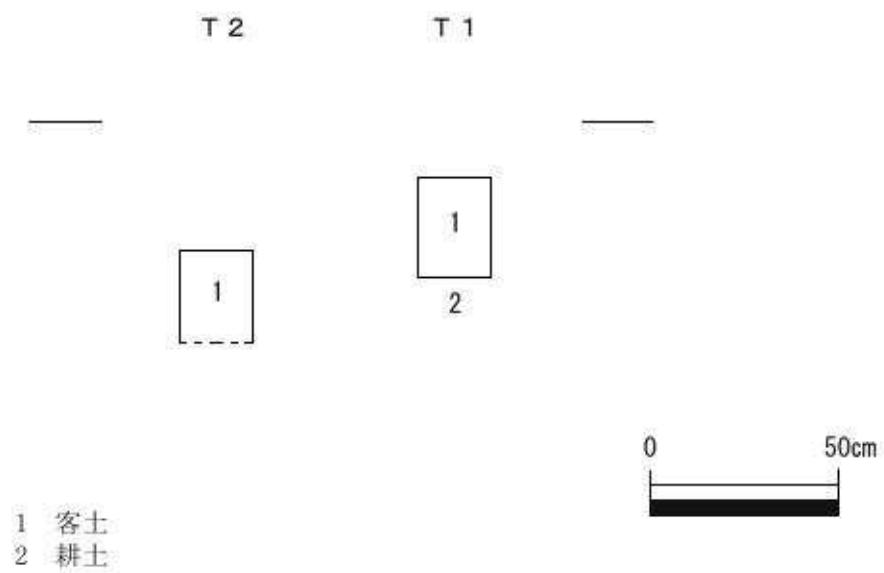


図21 トレンチ北壁土層柱状図

第2節 下石野上畠遺跡

1 所在地

三木市別所町下石野字上畠 947、
951-1、951-4、951-5

2 調査の原因

個人住宅の新築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査、工事立会

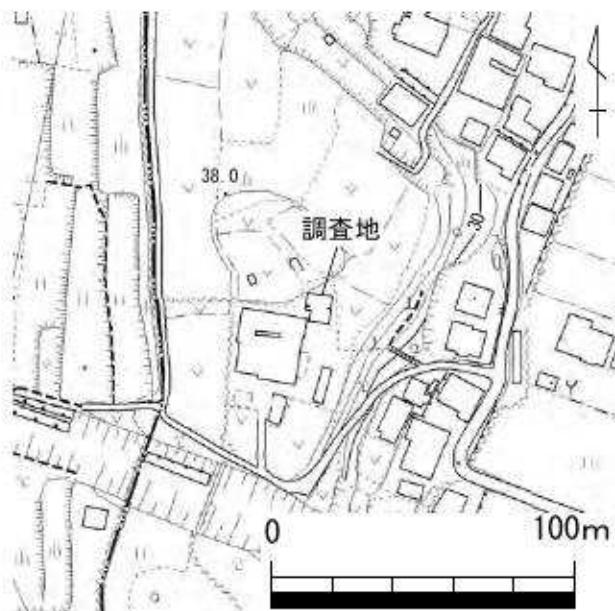


図 22 位置図

5 調査期間

平成 25 年 3 月 27 日（確認調査）、4 月 16 日（工事立会）

6 調査面積

1.5 m²（確認調査）、51.5 m²（工事立会）

7 調査の方法

当遺跡は、平安時代の散布地とされている。確認調査では、事業地内において、遺跡の内容を確認するため、2カ所に調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。工事立会では、布基礎工法による筋状の掘削部分等において、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果

(1) 確認調査（図 23～25）

G 1 では、表土から 0.3m の深さで地山が検出された。G 2 では、表土から 0.15m の深さで地山が検出され、径 0.2m・深さ 0.2m のピットが 1 基検出された。時期は、G 2 表土において、12世紀頃の須恵器塊底部が出土したことから、平安時代後期頃と考えられる。

限られた調査面積であるため、詳細は明らかにならないが、周辺にも遺

構が広がる可能性が考えられる。

(2) 工事立会（図 23・26）

布基礎工法による筋状の掘削部分においては、遺構が確認されなかつたが、部分的に行われた表土掘削において、地山上面からピットが 1 基検出された。ピットの規模は、径 0.3m・深さ 0.25m を測る。時期については、確認調査でピット 1 基と 12 世紀頃の須恵器塊底部が出土したことから、平安時代後期頃と考えられる。

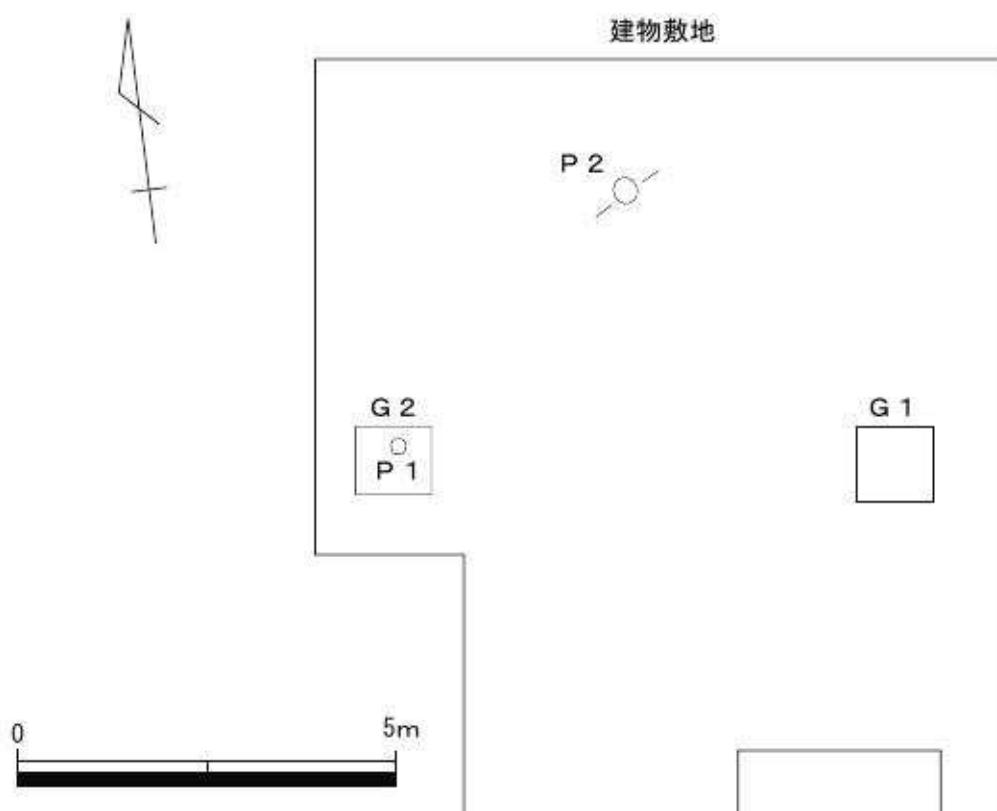
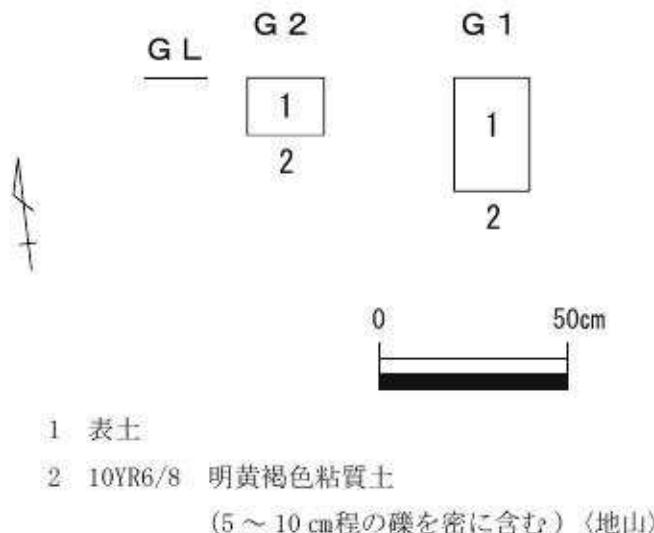
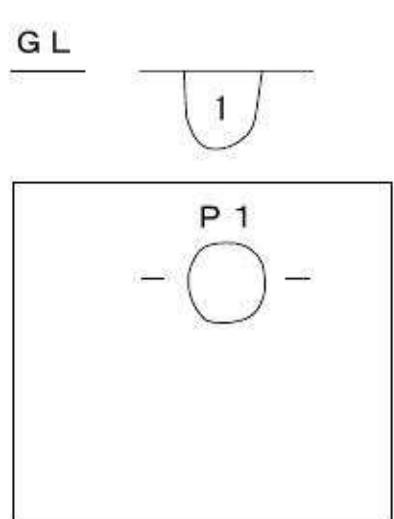


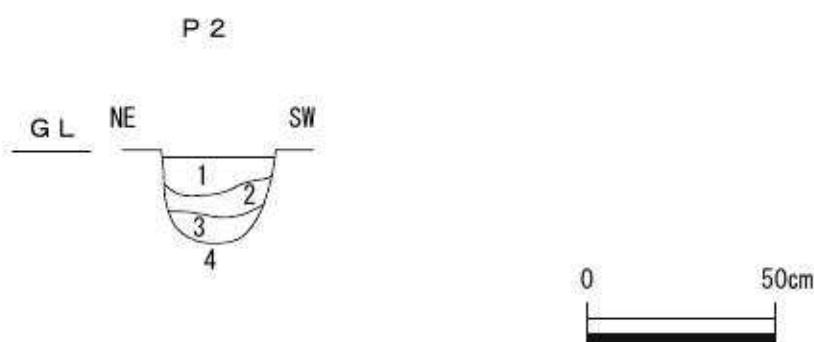
図23 平面図



1 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土

図24 P 1 土層断面図

図25 土層柱状図



- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土 | |
| 2 10YR4/6 褐色粘質土 | (2を粒状に含む) |
| 3 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土 | (地山を粒状に含む) |
| 4 10YR6/8 明黄褐色粘質土 | (5~10cm程の礫を密に含む) (地山) |

図26 P 2 土層断面図

第5章 調査の成果（平成25年度）

第1節 三木城跡

1 所在地

三木市上の丸町7-4

2 調査の原因

個人住宅の建替え工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成25年4月10日

6 調査面積

4 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、2ヵ所に調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図28・29）

当該地は、三木城新城跡と本丸跡・二の丸跡を画する堀底内に位置する。

G1・G2とともに、瓦礫を密に含む表土と客土によって盛土造成されており、造成土が基礎工事掘削深度内におさまることが判明した。

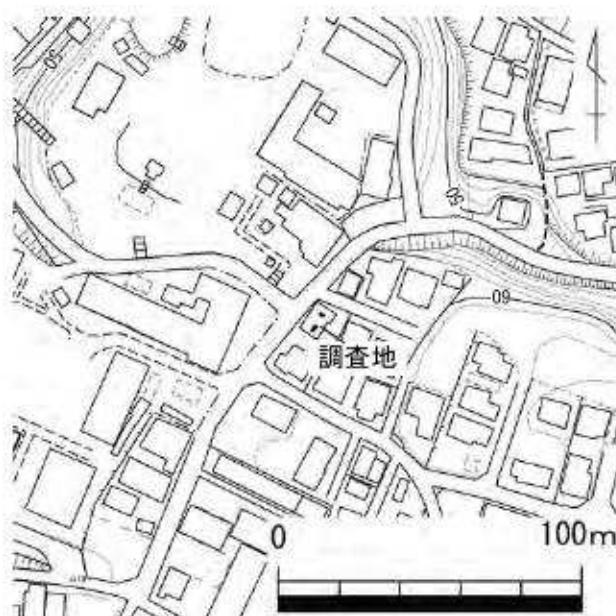


図27 位置図

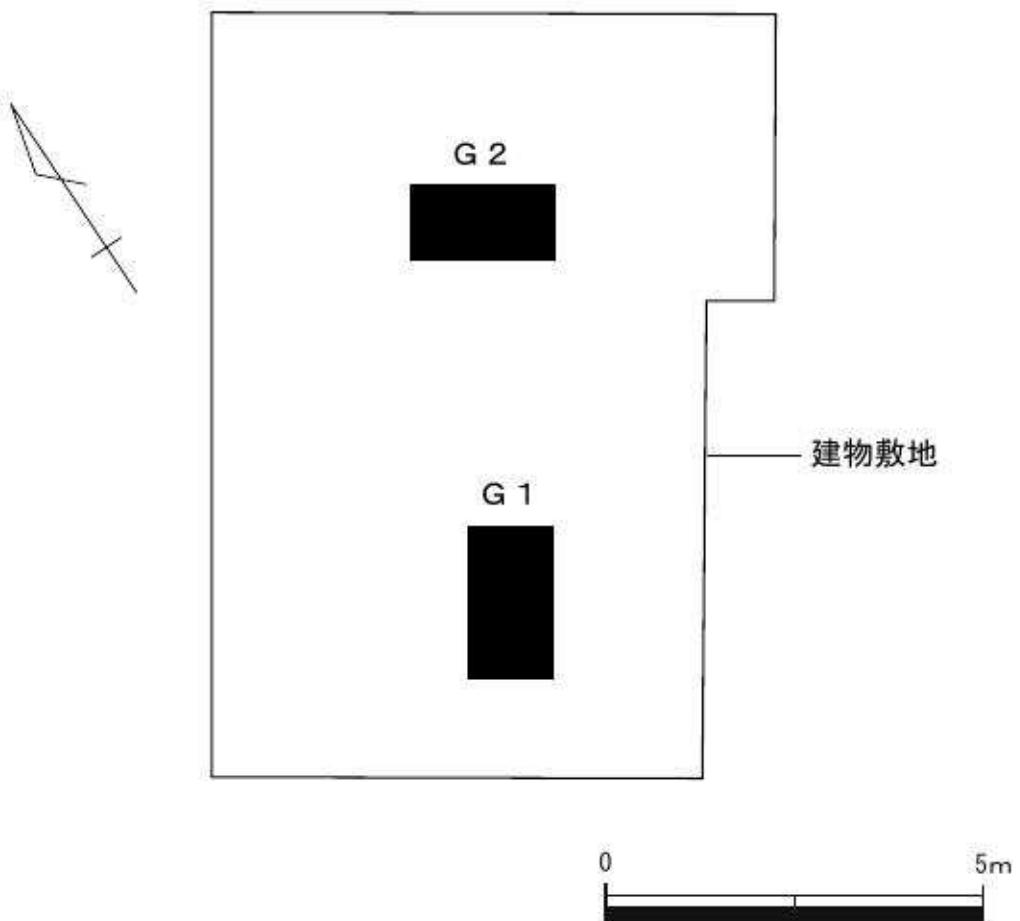


図28 グリッド配置図

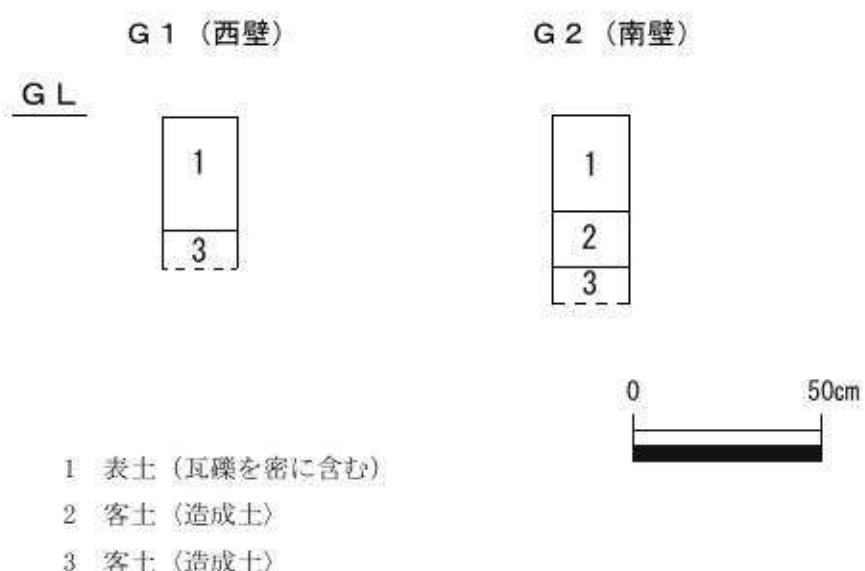


図29 土層柱状図

第2節 与呂木青葉台7号墳

1 所在地

三木市与呂木字高野越 683-394

2 調査の原因

個人住宅の新築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成25年9月25日

6 調査面積

3.9 m²

7 調査の方法

北側隣地の庭にわずかに残存する与呂木青葉台7号墳と接している。事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1カ所に調査トレンチを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図31・32）

当遺跡は、古墳時代後期の古墳とされている。

当初、墳丘の基底部や周溝の検出が想定されたが、調査の結果、昭和49年（1974）に実施された整地事業によって、墳丘等がすでに削平されていたことが判明し、遺構・遺物は確認できなかった。



図30 位置図

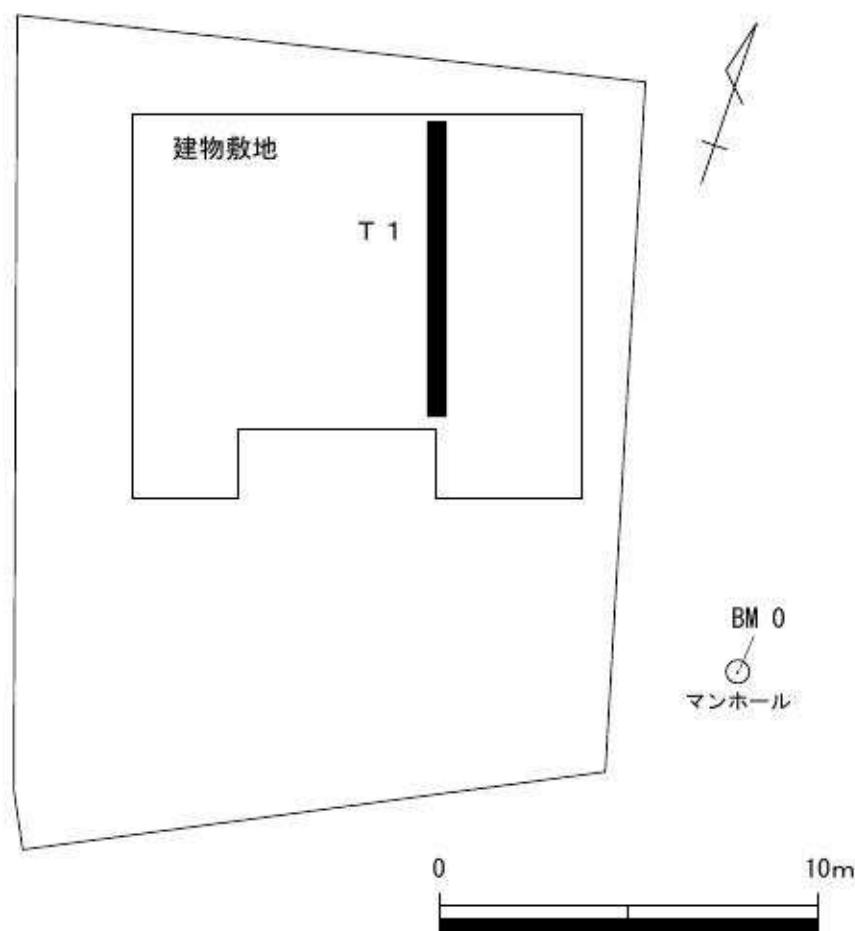
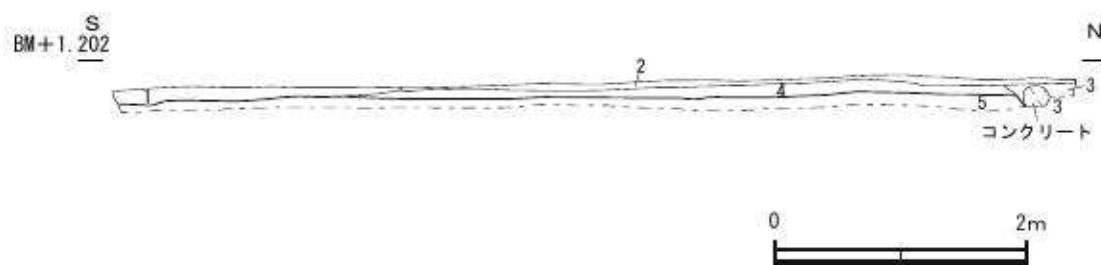


図31 トレンチ配置図



- 1 表土
- 2 表土
- 3 客土 (コンクリート片を密に含む)
- 4 10YR6/8 明黄褐色砂質土 (固く締まる、表土含む、1~5cm程の礫を密に含む) (整地土)
- 5 10YR6/8 明黄褐色砂質土 (固く締まる、1~5cm程の礫を密に含む) (地山)

図32 西壁土層断面図

第3節 三木城跡

1 所在地

三木市上の丸町 940-3

2 調査の原因

個人住宅の建替え工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成 25 年 12 月 9 日

6 調査面積

1.1 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1カ所に 1.0m × 1.1m の調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図 34・35）

当該地は、三木城跡南東部の台地上に位置する。地山とみられる層を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。

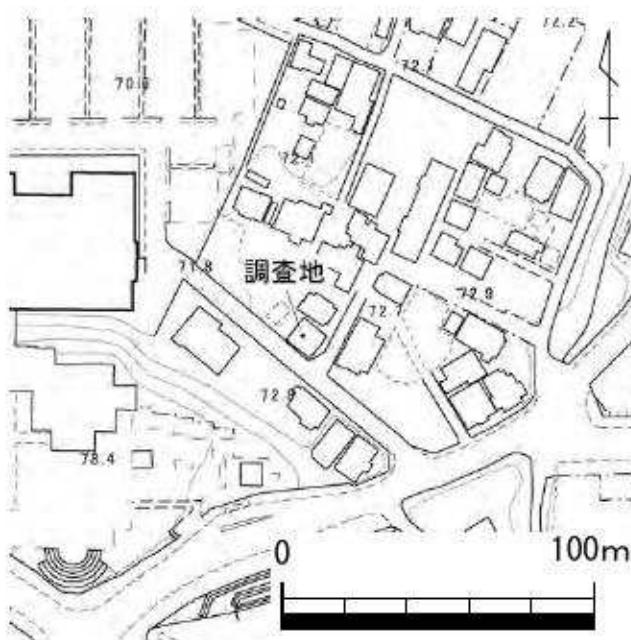


図 33 位置図

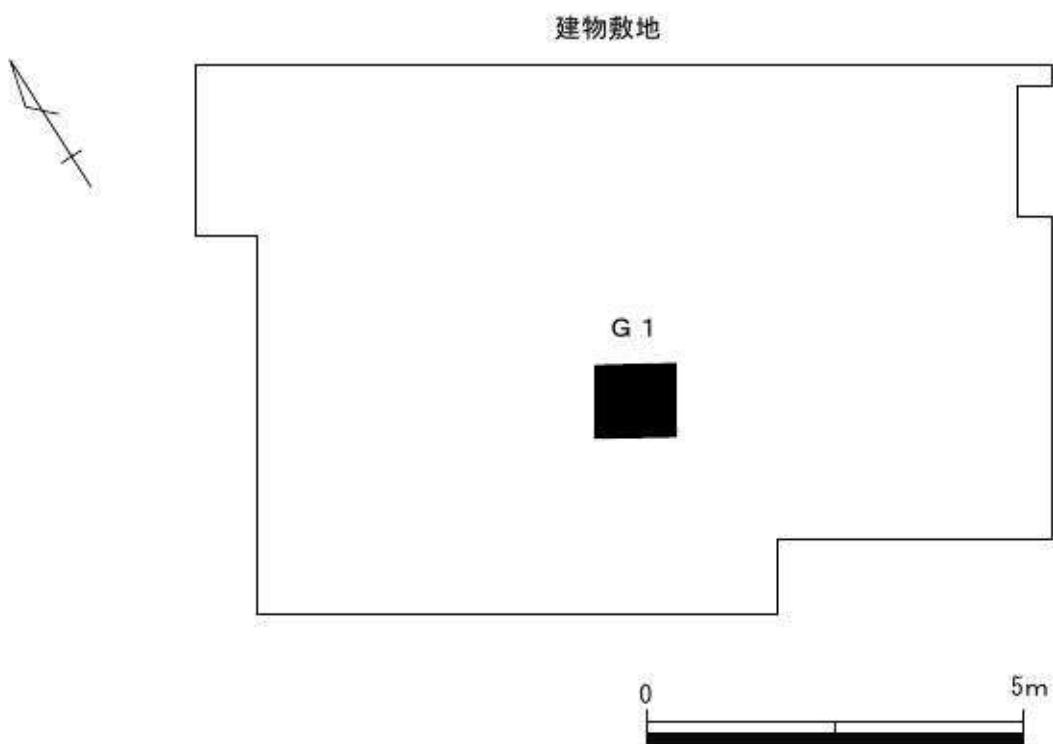
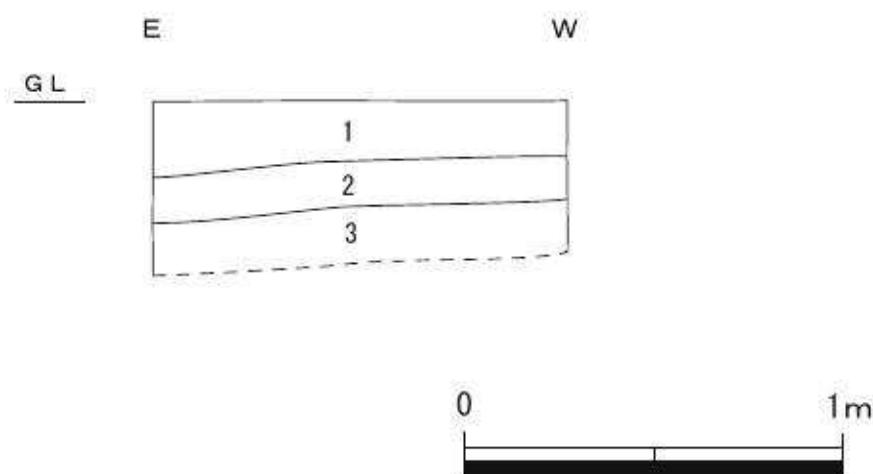


図34 グリッド配置図



- | | | | | |
|---|---------|---------|---------------|----------|
| 1 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | (1cm～拳大の礫を含む) | 〈整地層・盛土〉 |
| 2 | 10YR4/3 | 褐色土 | (2～5cm大の礫を含む) | 〈旧表土〉 |
| 3 | 10YR6/6 | 明黄褐色砂質土 | (3～5cmの礫を含む) | 〈地山?〉 |

図35 南壁土層断面図

第6章 調査の成果（平成26年度）

第1節 大塚出張遺跡

1 所在地

三木市大塚字出張 218-3 他

2 調査の原因

服部病院の増築工事

3 事業者

医療法人社団一陽会

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成26年7月31日

6 調査面積

18 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、2ヵ所に3m×3mの調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図37・38）

当遺跡は、飛鳥時代・平安時代の集落遺跡とされている（三市教育委員会2014）。

駐車場造成に伴う盛土が行われ、耕土以下は谷地形となり、地山はG1が黄灰色粗砂、G2が灰黄色シルト質粘土であることが確認された。G1は湧水が激しく、G2でも湧水が見られた。平成22年度に実施した確認調査・本発掘調査成果とも整合性が取れる。なお、遺構・遺物は確認できなかった。

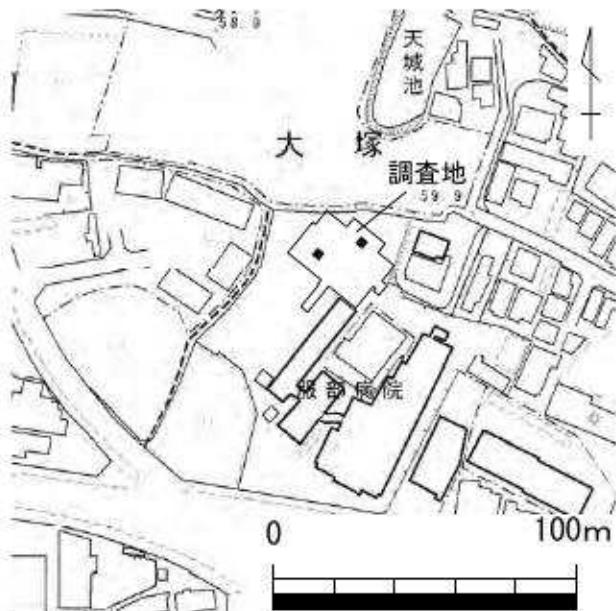


図36 位置図

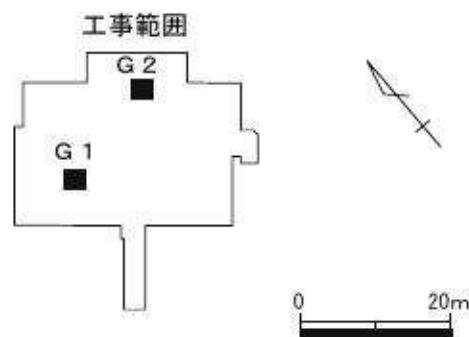


図37 グリッド配置図

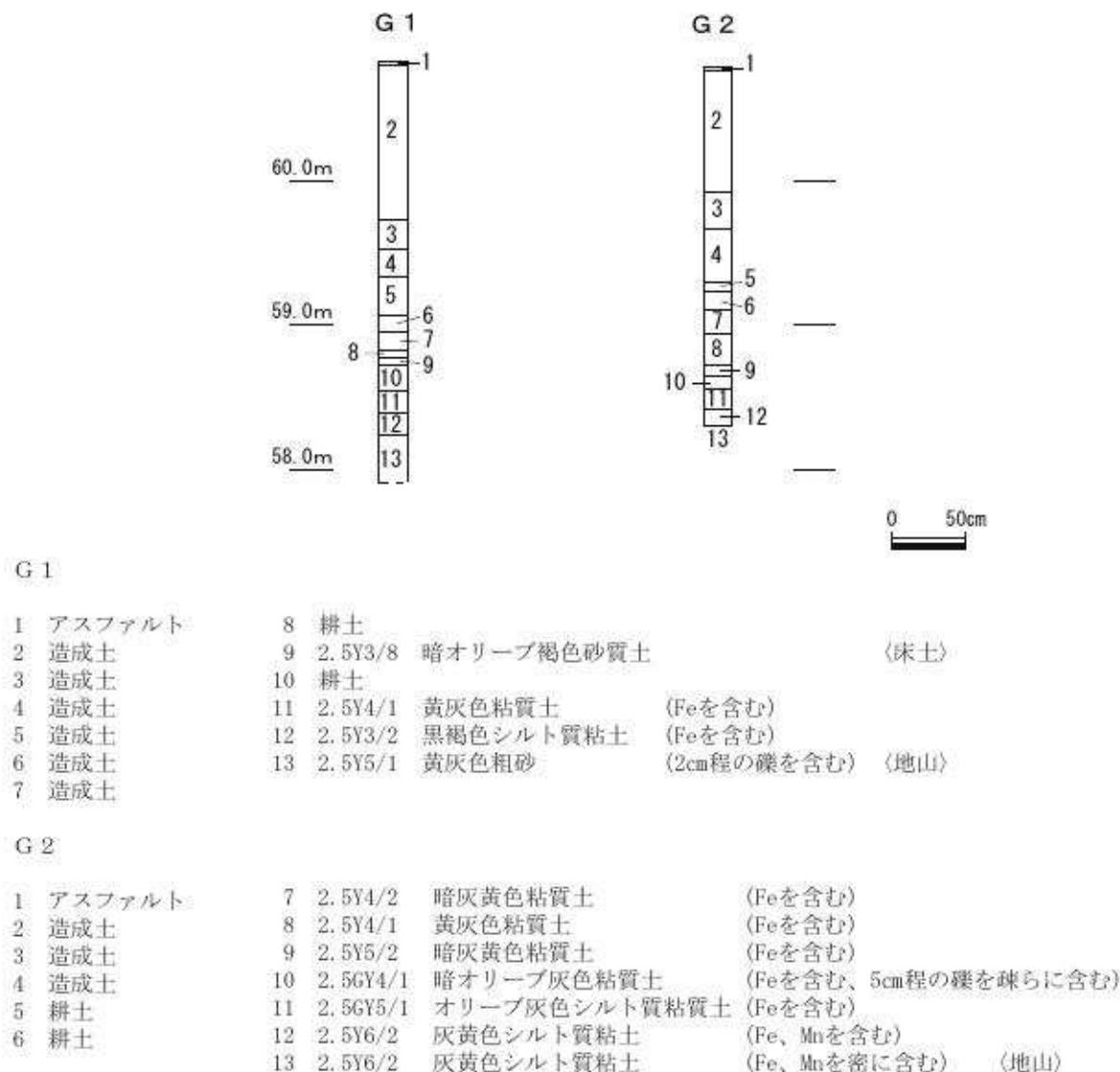


図38 土層柱状図

第7章 調査の成果（平成27年度）

第1節 福井土壠H

1 所在地

三木市福井字宮ノ前 2372、2373

2 調査の原因

資材置場の整備工事

3 事業者

熊野建設株式会社

4 調査の種別

本発掘調査

5 調査期間

平成27年4月7日～4月30日

6 調査面積

50 m²

7 調査の方法

資材置場の進入路設置予定箇所の5m×10mを調査区として設定し（図39・40）、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

トレンチの位置図（1/500）・遺構平面図（1/50）は委託し、トータルステーション測量を行った。

8 調査の結果

（1） 遺構（図42・43）

当遺跡は、天正7年（1579）4月に織田信忠が築いたとされる小林八幡神社付城跡の南側に位置する。織田方が三木城への兵糧搬入を防ぐために、同年6月頃に付城間を繋ぐように築いた多重土壠のうち、小林八幡神社付城跡と連結したものと考えられる（三市教育委員会 2012）。現状では、全長約

32mを測るが、東隣の敷地の垣根が土壘の痕跡と考えると、全長約 60mと推測される。往時は、西側に隣接する福井土壘Gと繋がっていたとみられる。

調査の結果、土壘は厚さ 0.3~0.5mの客土が盛られており、攪乱を受けている箇所も見られたことが判明した。土壘検出面については、西半部は道路面より低く、東半部は道路面より高い位置であった。遺構面ベース土からの土壘の高さは、最高所で 0.6mを測る。基底部幅は、3.1~4.0mを測る。断ち割りにより黄褐色～明黄褐色粘質土で土壘が盛られていたことが判明した。

土壘北側に接して、溝が検出された。幅 1.2~1.6m、深さ 0.1~0.3mを測る。溝からは、近代の施釉陶器片が出土した。

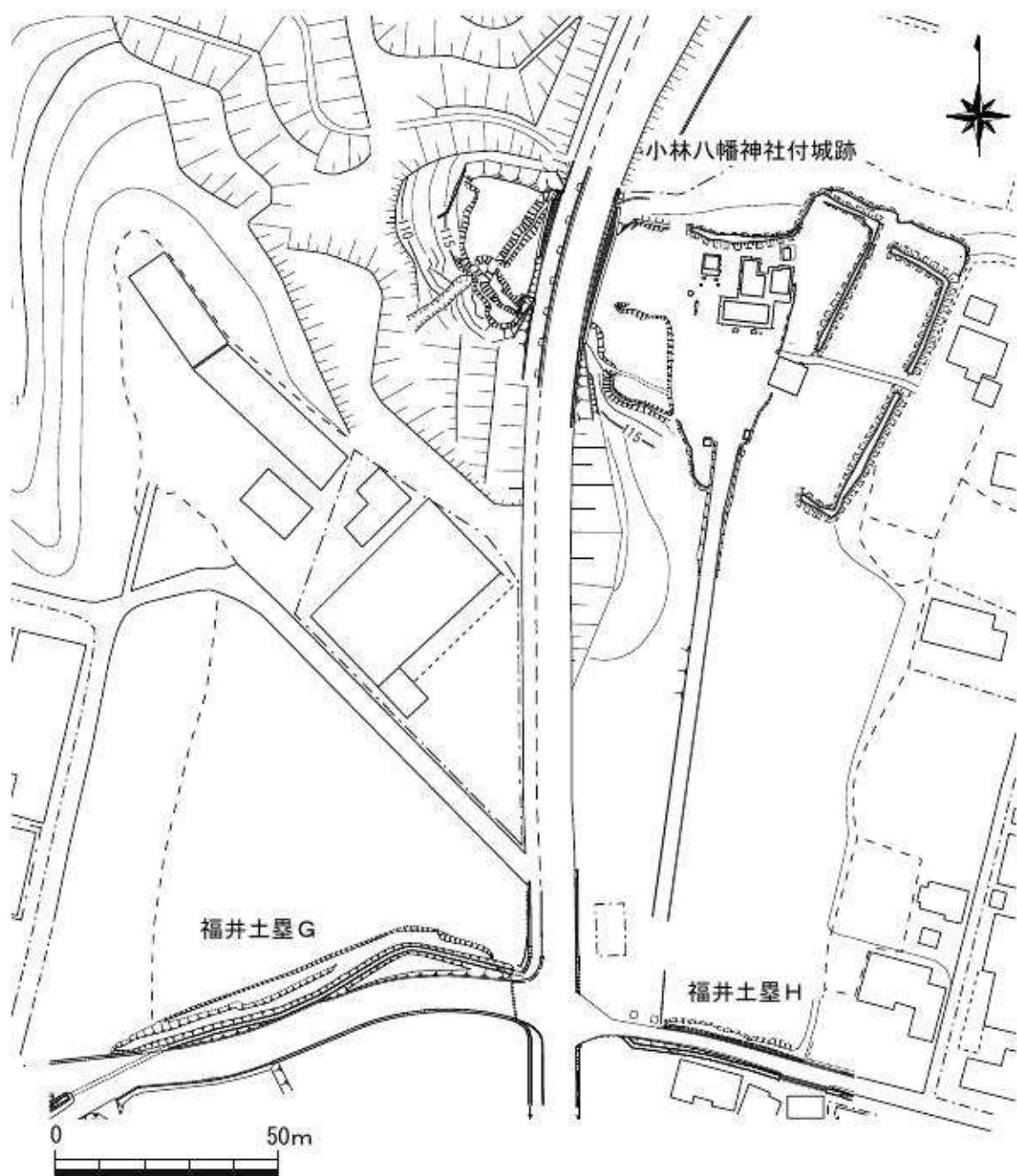


図 39 位置図

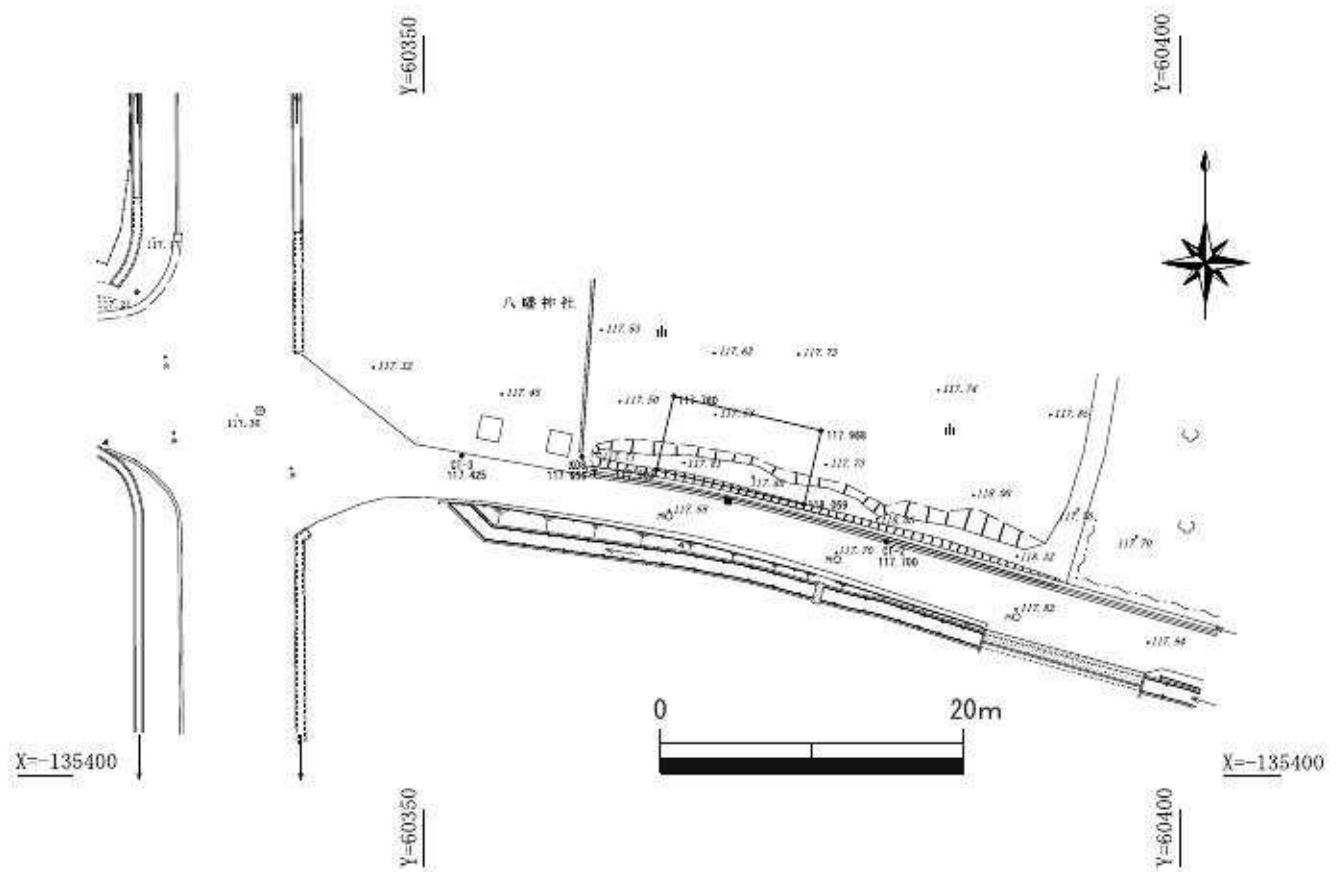
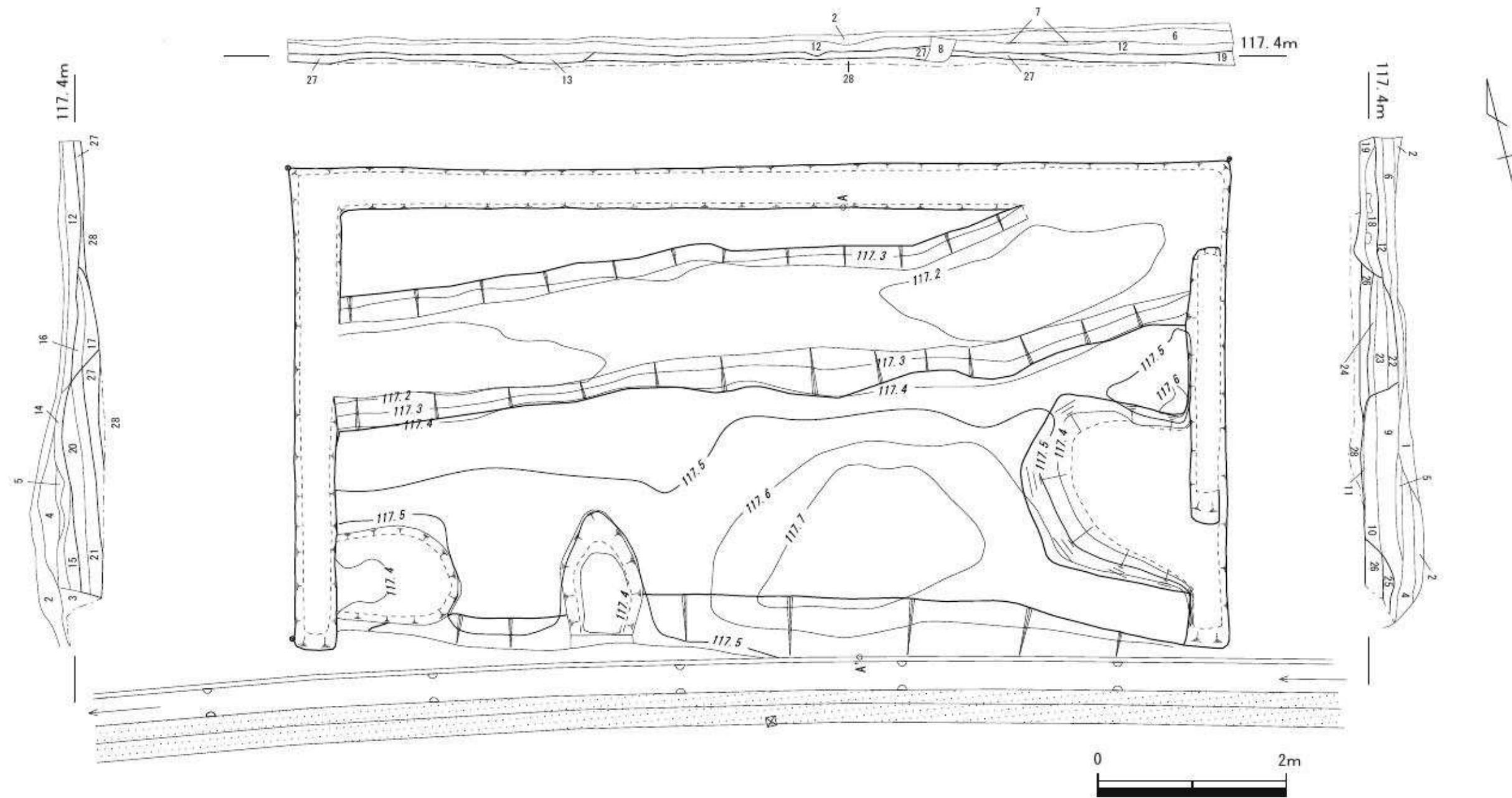


図 40 調査区配置図

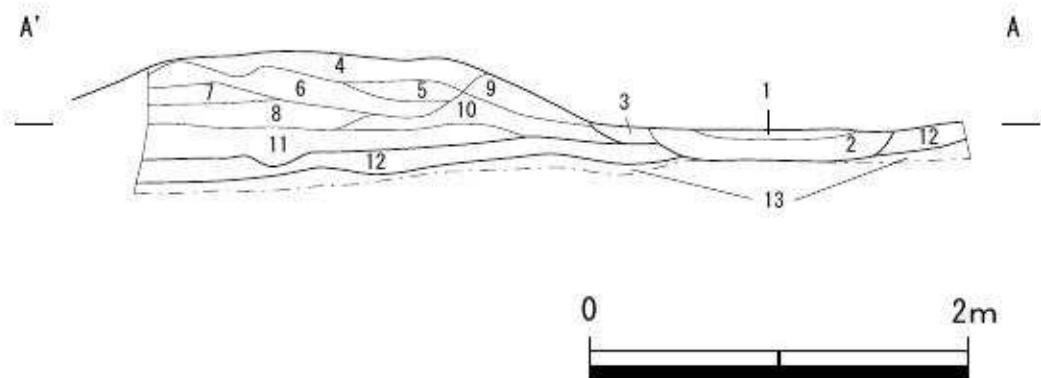


図41 出土遺物 (S=1/3)



1 腐葉土	(炭化層、現代遺物含む)	〈現代野焼き層〉	16 2.5Y6/4	にぶい黄色粘質土 (2~5mm程の礫をわずかに含む)	} 〈溝埋土〉
2 腐葉土			17 2.5Y5/6	黄褐色粘質土 (2~5mm程の礫をまばらに含む)	
3 側溝堀形			18 2.5Y5/6	黄褐色粘質土 (12を粒状に含む、底部に炭層を含む)	
4 客土	(びん、プラスチック等現代遺物含む)		19 2.5Y6/8	明黄褐色粘質土 (粘性が強い、Feを含む)	
5 客土			20 10YR5/8	黄褐色粘質土 (やや固く締まる、Fe・Mnを含む)	
6 現代整地層			21 10YR6/8	明黄褐色粘質土 (Feを含む)	
7 現代炭化層			22 2.5Y5/6	黄褐色粘質土 (やや軟質)	} 〈土壌盛土〉
8 腐葉土		〈搅乱〉	23 2.5Y6/6	明黄褐色粘質土 (やや軟質、5mm~1cm程の礫をわずかに含む)	} 〈土壌盛土?〉
9 搅乱			24 2.5Y5/6	黄褐色粘質土	} 〈土壌盛土〉
10 搅乱	(底部に灰色の土層)		25 2.5Y6/6	明黄褐色粘質土 (固く締まる、5mm~3cm程の礫をわずかに含む)	} 〈遺構面ベース土?〉
11 2.5Y5/3	黄褐色粘質土	〈搅乱滞水層〉	26 2.5Y5/6	黄褐色粘質土 (やや固く締まる)	} 〈遺構面ベース土〉
12 2.5Y4/6	オリーブ褐色砂質土	〈堆積土〉	27 2.5Y6/8	明黄褐色粘質土 (固く締まる、Feを含む、2~5cm程の礫をわずかに含む)	} 〈地山〉
13 10YR5/4	黄褐色粘質土 (炭化物と地山を粒状に含む)	〈搅乱〉	28 10YR5/8	黄褐色粘質土 (やや固く締まる)	
14 旧表土					
15 2.5Y4/4	オリーブ褐色砂質土	〈搅乱?〉			

図 42 平面・断面図



1	2.5Y5/4	黄褐色砂質土	(やや軟質、1～4cm程の礫をまばらに含む)	} (溝埋土)
2	2.5Y5/6	黄褐色粘質土	(やや軟質、5mm～3cm程の礫をまばらに含む)	
3	2.5Y6/4	にぶい黄色粘質土	(1～4cm程の礫をまばらに含む)	
4	2.5Y6/4	にぶい黄色粘質土	(やや軟質、5mm～3cm程の礫をわずかに含む)	
5	2.5Y6/8	明黄褐色粘質土	(やや軟質、5mm～2cm程の礫をまばらに含む)	} (土壌盛土)
6	2.5Y5/6	黄褐色粘質土	(やや軟質、5mm～1cm程の礫をまばらに含む)	
7	2.5Y5/6	黄褐色粘質土	(5mm～2cm程の礫をわずかに含む)	
8	2.5Y5/6	黄褐色粘質土	(5mm～1cm程の礫をわずかに含む)	
9	2.5Y6/8	明黄褐色粘質土	(やや固く締まる、5mm～1cm程の礫をわずかに含む)	} (遺構面ベース土)
10	2.5Y6/6	明黄褐色粘質土	(やや固く締まる)	
11	2.5Y6/6	明黄褐色粘質土	(1～4cm程の礫をわずかに含む)	
12	2.5Y6/8	明黄褐色粘質土	(Feを含む、固く締まる、2～5mm程の礫をわずかに含む)	
13	10YR5/8	黄褐色粘質土	(やや固く締まる)	} (地山)

図43 断ち割り土層断面図

(2) 出土遺物

① 染付磁器碗（図 41-1）

西壁 12 層から出土したもので、肥前系染付磁器碗とみられる。内外面とも施釉され、外面には青い線状の施文がわずかに 1 条みられ、内面の端部には青色の界線が 2 条めぐる。口縁端部は丸くおさめる。

細片のため時期は明確にはできないが、兵庫津遺跡出土遺物の類例（1824・1827）（兵庫県教育委員会 2004）の年代観から、18 世紀代のものとみられる。

② 施釉陶器土瓶（図 41-2）

土壙脇の溝から出土したもので、信楽系汽車土瓶とみられる。外面は口縁端部以外に灰釉がかかり、貫入は粗い。頸部は黒い界線が 3 条めぐり、上部 2 条の間には等間隔で丸括弧状の施文が施されている。体部は中央に青色で波状及びその上に黒い網状の絵柄が施され、下部に黒い界線が 1 条めぐる。内面は露胎であり、ロクロナデにより成形されている。

時期は、畠中英二氏の編年案（畠中 2007）によると、第 1 期（明治 22 年（1889）～27・28 年頃）に該当するとみられる。

表 3 出土遺物観察表

番号	遺構名	遺物名	器種(部位)	色調	胎土	焼成	法量(cm ³)は復元値・残存値 口径 器高		形態的特徴・調整など
							口径	器高	
1	西壁12層	染付磁器	碗(口縁部)	外面:2.5GY8/1 灰白 内面:2.5GY8/1 灰白	密	良	(11.0)	(3.5)	外面:施釉、施文 内面:施釉、施文
2	溝埋土	施釉陶器	土瓶(口縁～体部)	外面:2.5Y7/2 灰黄 内面:7.5R5/2 灰赤	密	良	(8.6)	(8.9)	外面:施釉、施文 内面:露胎、ロクロナデ

9 まとめ

現状で確認できた土壙は、客土によるところが大きく、残存状況は良好ではないことが判明した。土壙の盛土は脇に溝を掘り、その土を盛って築いたことが判明した。

溝の埋没時期については、出土遺物の年代観から、最終的には 19 世紀末頃まで下るとみられる。

なお、道路面よりも低い箇所の遺構については、事業者の理解を得て盛土保存した。

第2節 大塚遺跡

1 所在地

三木市大塚2丁目308番1、
315番、316番1、316番5

2 調査の原因

店舗の造成・建築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

工事立会

5 調査期間

平成27年11月25日

6 調査面積

8.6 m²

7 調査の方法

工事に合わせて、建物範囲と擁壁部分に調査グリッドを2か所設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図46・47）

当遺跡は、奈良時代～平安時代の散布地とされている。

G1・2では、堆積土から12世紀頃とみられる須恵器・土師器の細片が出土したが、遺構の検出はなかった。

G1は地山が極めて粘質で湧水が激しく、G2でも湧水があったことから、集落を形成するには不向きな場所であったと考えられる。平成16年度に実施した試掘調査とほぼ同様の調査結果と判断できる。

南東約1.1kmには、平安時代末期から鎌倉時代初期の瓦陶兼用窯である宿原1・2・3号窯があり、灰原の2次堆積として混入したとみられる遺物が、

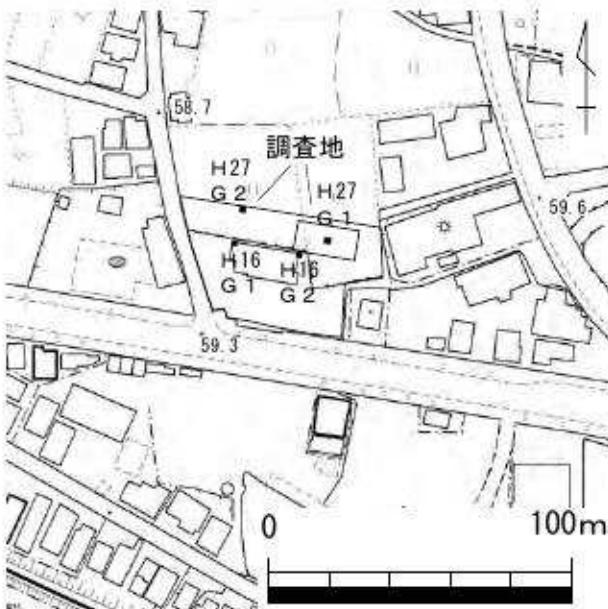


図44 位置図

宿原大池遺跡や大塚出張遺跡、宿原城跡など周辺の遺跡で広く確認されている。大塚遺跡G1堆積土から出土した須恵器塊（図45）についても、焼成不良で失敗品とみられることから、その可能性が指摘できる。

表4 出土遺物観察表

グリッド	遺構名	遺物名	器種(部位)	色調	胎土	焼成	測量(cm) ()は復元値・残存値		形態的特徴・調整など
							口径	器高	
G1	堆積土	須恵器	塊(口縁部)	外面:N8/ 灰白 内面:N8/ 灰白	密、1mm以下の黒色砂粒を含む	不良	(14.0)	(2.2)	内面:回転ナデ 外側:回転ナデ

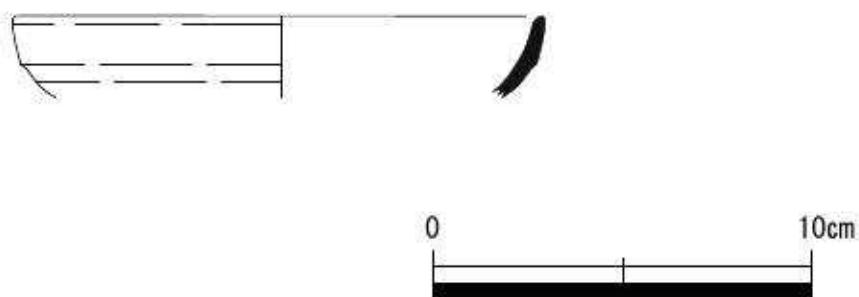


図45 出土遺物 (S=1/2)

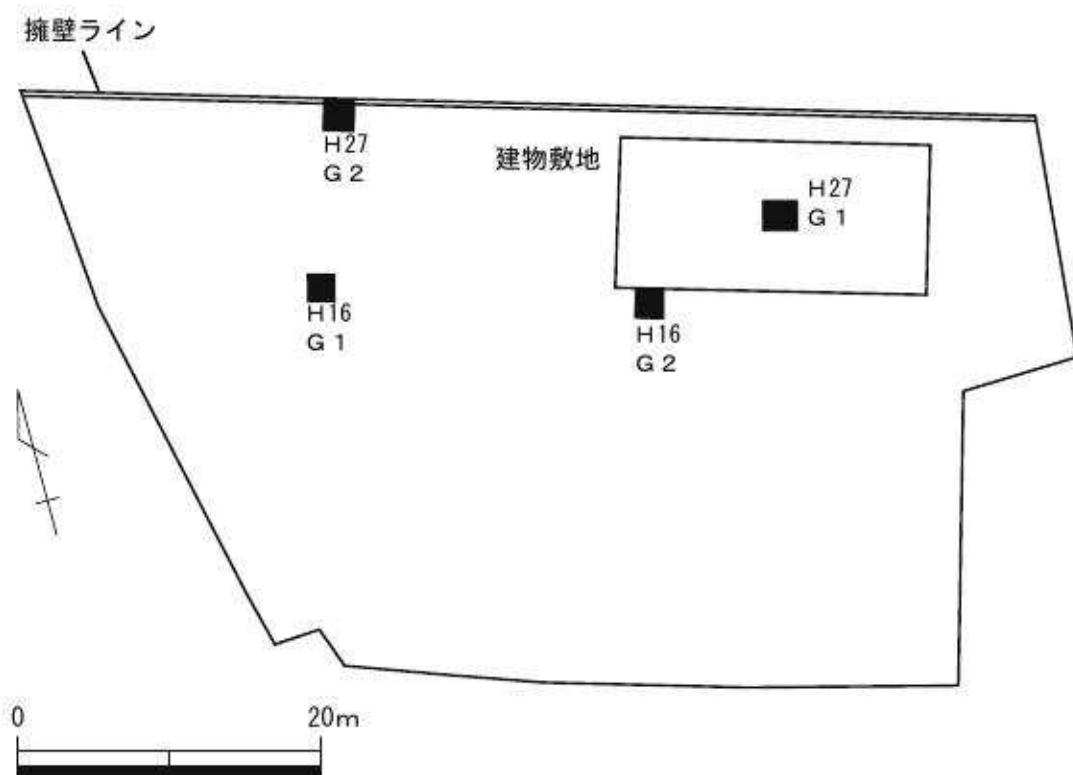


図46 グリッド配置図

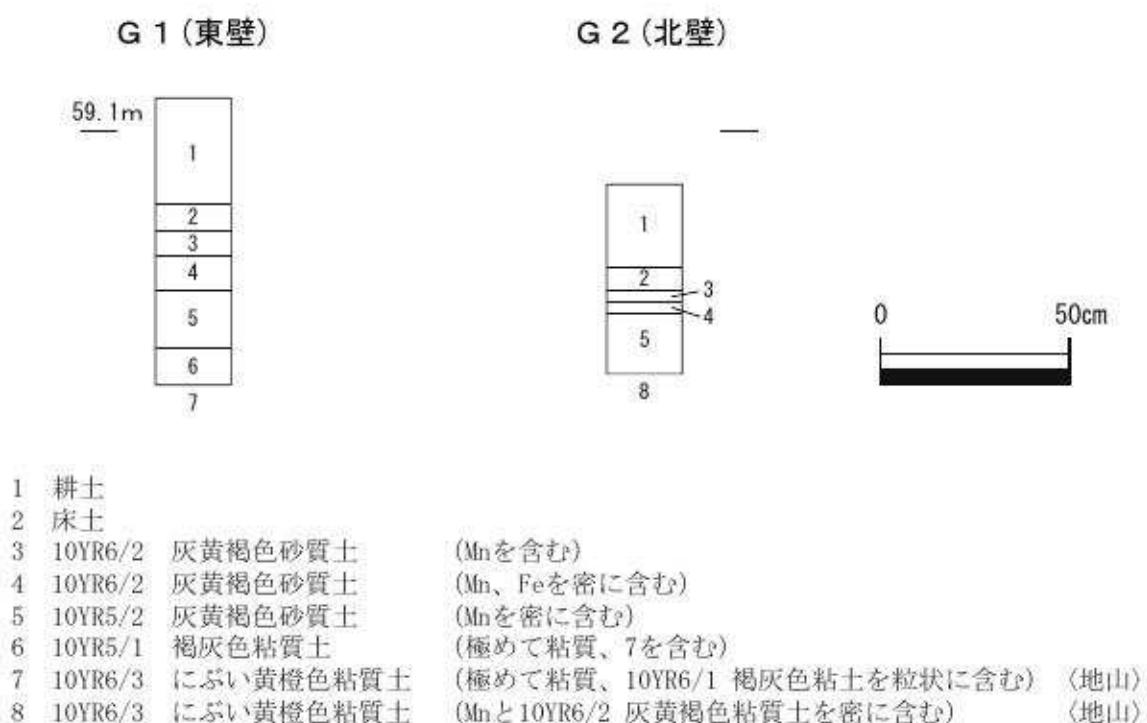


図47 土層柱状図

第8章 調査の成果（平成28年度）

第1節 石野田中散布地

1 所在地

三木市別所町石野字大道 842 番 2

2 調査の原因

個人住宅の建替え工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成28年6月13日

6 調査面積

3.15 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1ヵ所に 4.5m×0.7m の調査トレンチを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図49・50）

当遺跡は、奈良時代の散布地とされている。

既存の住宅造成に伴う盛土が行われており、地山はオリーブ褐色砂礫であり、湧水が激しいことが確認された。遺構・遺物は確認できなかった。

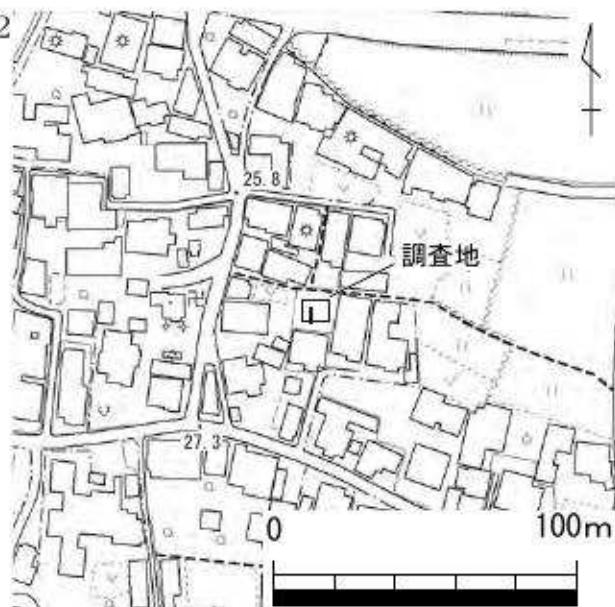


図48 位置図

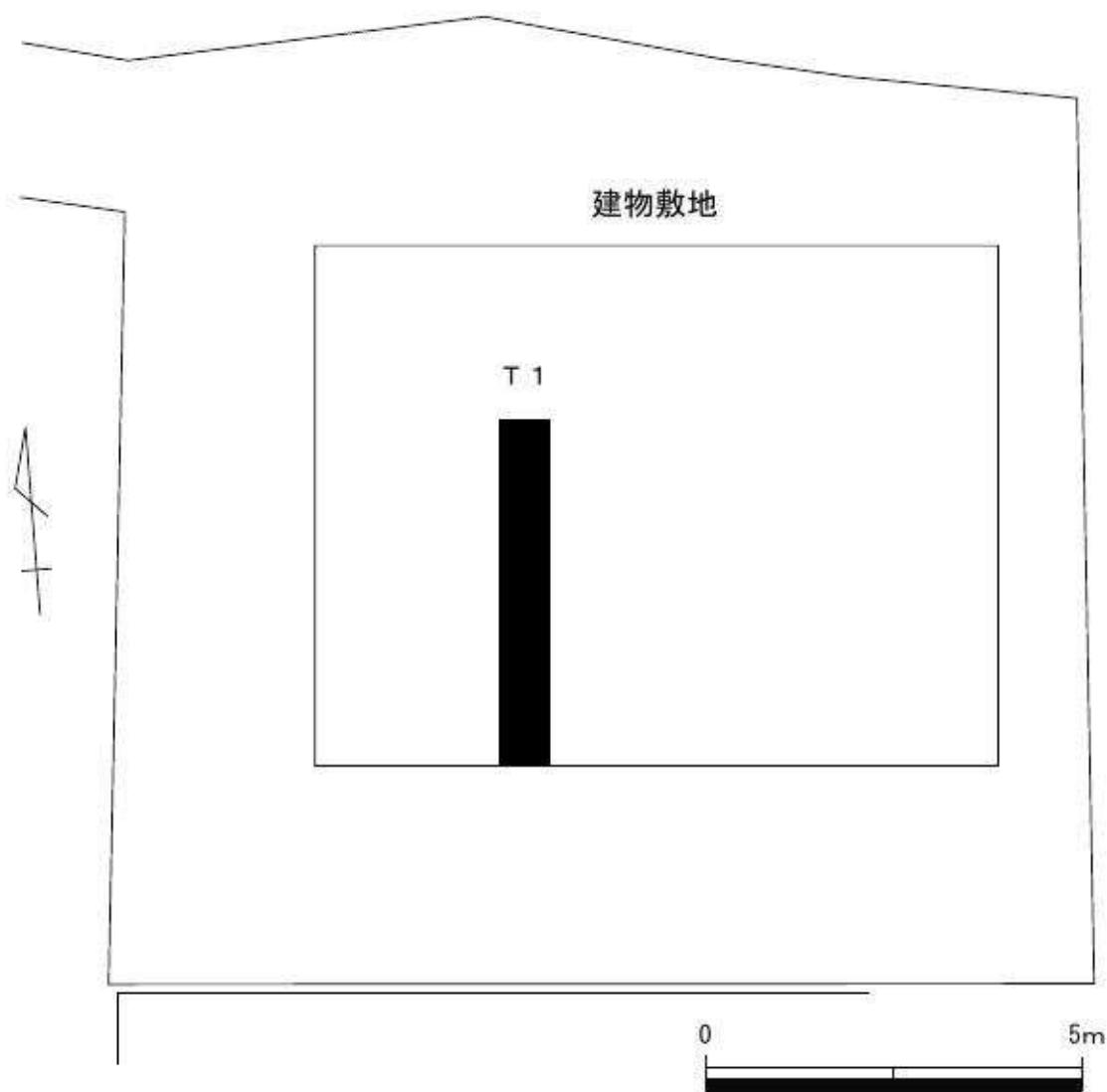
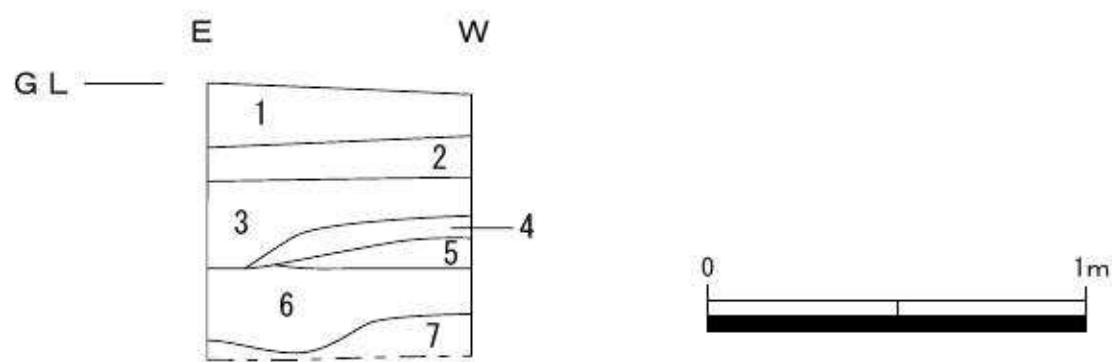


図49 トレンチ配置図



1~6 客土
7 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂礫（湧水が激しい）〈地山〉

図50 南壁土層断面図

第2節 大村坊貝チ散布地

1 所在地

三木市大村字坊貝チ 387番4、
395番2、399番1、399番3

2 調査の原因

長屋住宅の新築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成28年8月10日

6 調査面積

8 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、2カ所に2m×2mの調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図52・53）

当遺跡は、古墳時代から平安時代の散布地とされている。

調査の結果、畠地化にあたり盛土造成が行われていたことが判明した。盛土造成の時期は、G2において造成土とみられる礫層にビー玉等が含まれていたことから、近現代と考えられる。

遺物は、G2において礫層上面から古墳時代の須恵器高壺脚部、平安時代の土師器皿の小片が出土したが、盛土造成の際に混入したものと思われる。

また、地形は東から西へ緩やかに低くなっていることが判明した。G1・2ともに遺構は確認できなかった。

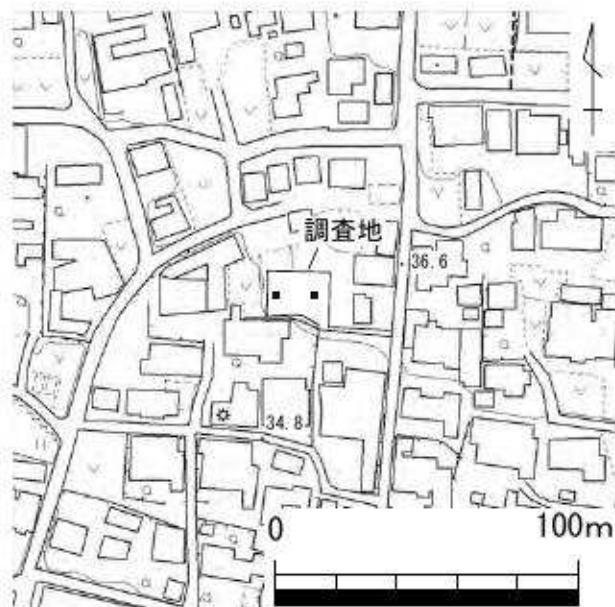


図51 位置図

建物敷地

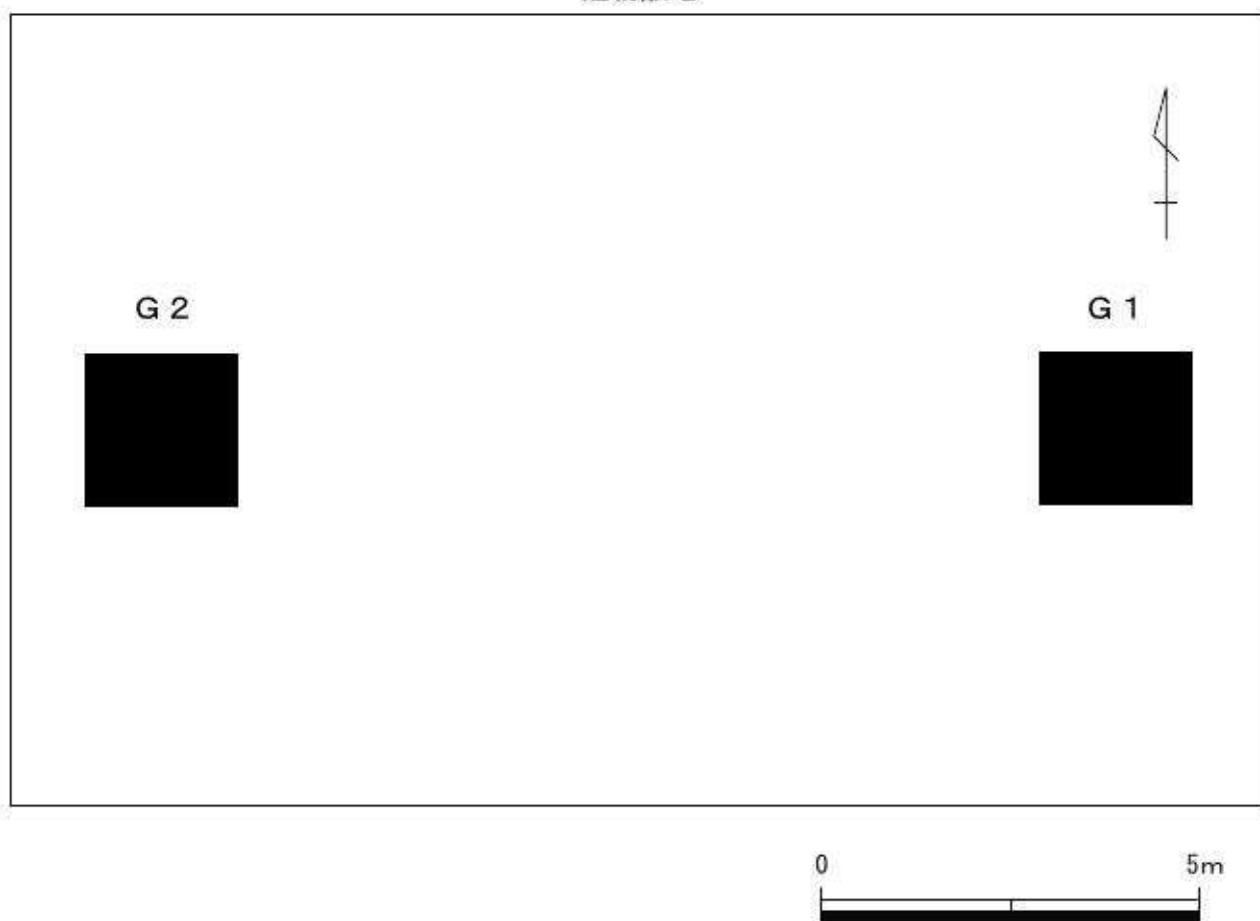
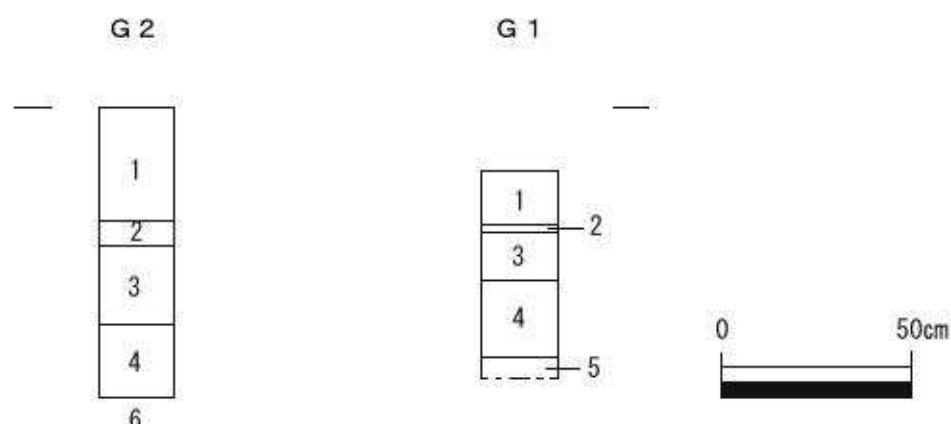


図52 グリッド配置図



- 1 耕土
 - 2 床土
 - 3 10YR4/4 褐色粘質土
 - 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫
 - 5 10YR5/6 黄褐色砂質土
 - 6 10YR4/6 褐色砂質土 (固く締まる)
- } (近現代客土)
} (地山)

※G 2 の北側は4層が入り込んでいる

図53 南壁土層柱状図

第3節 跡部川ノ上遺跡

1 所在地

三木市跡部字川之上 58 他

2 調査の原因

道路拡幅工事

3 事業者

三木市

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成 28 年 10 月 31 日

6 調査面積

10.5 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、3カ所に 1~1.5m × 3m の調査トレンチを設定し（図 54）、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図 55）

当遺跡は、奈良時代の散布地とされている。

T 1 は、黄褐色砂質土の地山面を検出したが、やや軟質であり安定していなかった。T 2 は、谷部となっており、地山は極めて軟質であったこと、そのため床土直下から木の根や拳大の礫などを敷き詰めて耕地化されていたことが判明した。T 3 は、大半が後世の搅乱によって、地山が削られていた。

いずれのトレンチにおいても、遺構・遺物は確認できなかった。当該地は美嚢川に近接していることから、日常生活には適さない場所であったと考えられる。

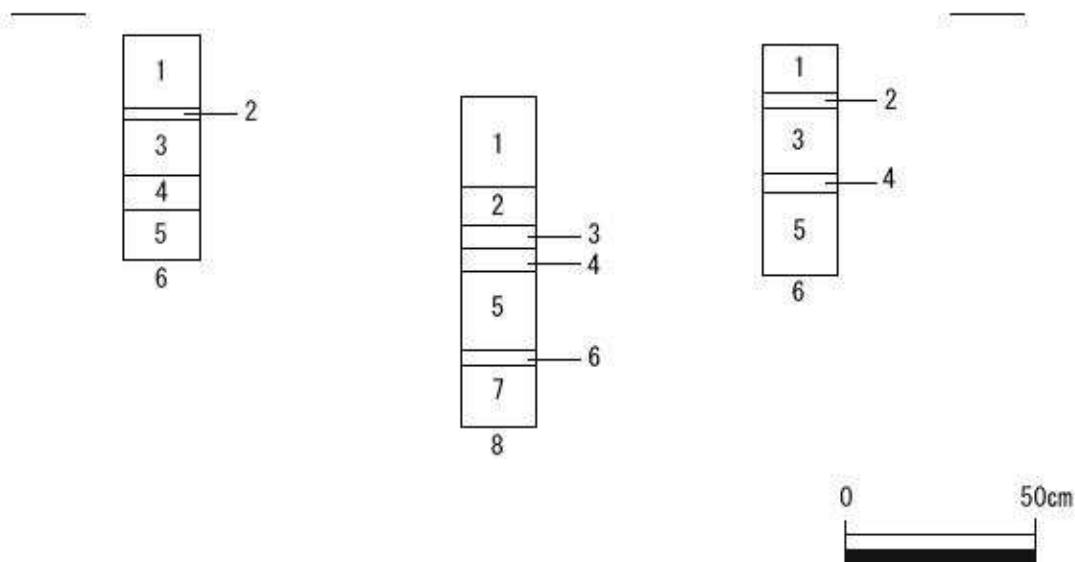


図 54 位置図

T 1 北東壁

T 2 南東壁
(北東端から 70 cm)

T 3 南壁西端



T 1	1	耕土	
	2	床土	
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色砂質土 (5 mm~1 cm程の礫を含む、Mn を含む)
	4	10YR5/6	黄褐色砂質土 (5 mm~1 cm程の礫を含む、Mn を含む)
	5	10YR5/3	にぶい黄褐色砂質土 (5 mm~1 cm程の礫を含む、Mn を含む)
	6	10YR5/8	黄褐色砂質土 (やや軟質、Mn を含む) (地山)

T 3	1	耕土	
	2	耕土	
	3	10YR4/4 褐色砂質土	
	4	2.5Y5/4 にぶい黄褐色砂質土	（搅乱）
	5	2.5Y5/6 黄褐色砂質土	
	6	2.5Y5/8 黄褐色砂質土	（地山）

図55 土層柱状図

第4節 吉田中ノ坪遺跡

1 所在地

三木市志染町吉田字泉 258 番地

2 調査の原因

事務所併用住宅の建築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成 28 年 11 月 28 日

6 調査面積

8 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、2カ所に 2 m × 2 m の調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図 57・58）

当遺跡は、弥生時代終末期～古墳時代後期の散布地とされている。

G 1 は、工事掘削深度が地山面までには至らなかった。

G 2 は、床土直下において、褐色砂質土の地山面を検出した。東側は近現代とみられる搅乱を受けていた。

G 1 の地山面は、G 2 より一段低いことが判明した。

いずれのグリッドにおいても、遺構・遺物は確認できなかった。

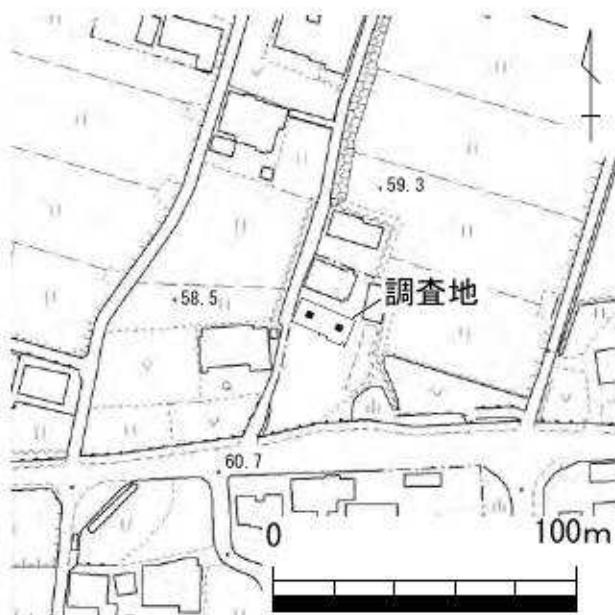


図 56 位置図

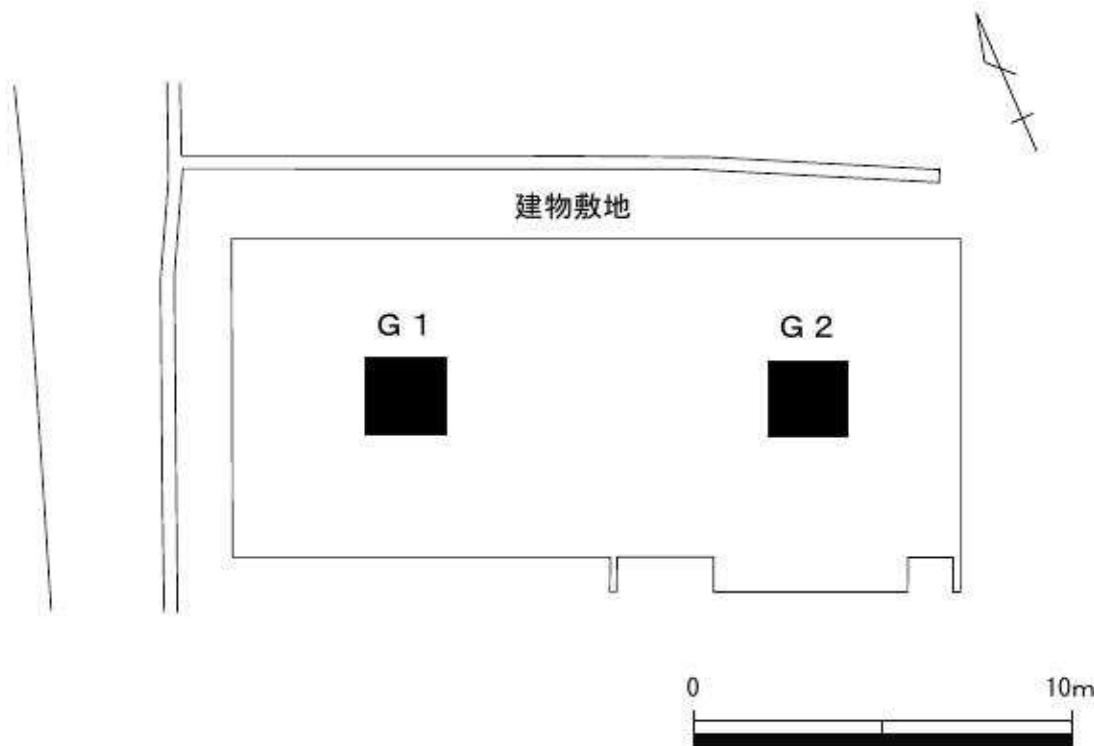


図57 グリッド配置図

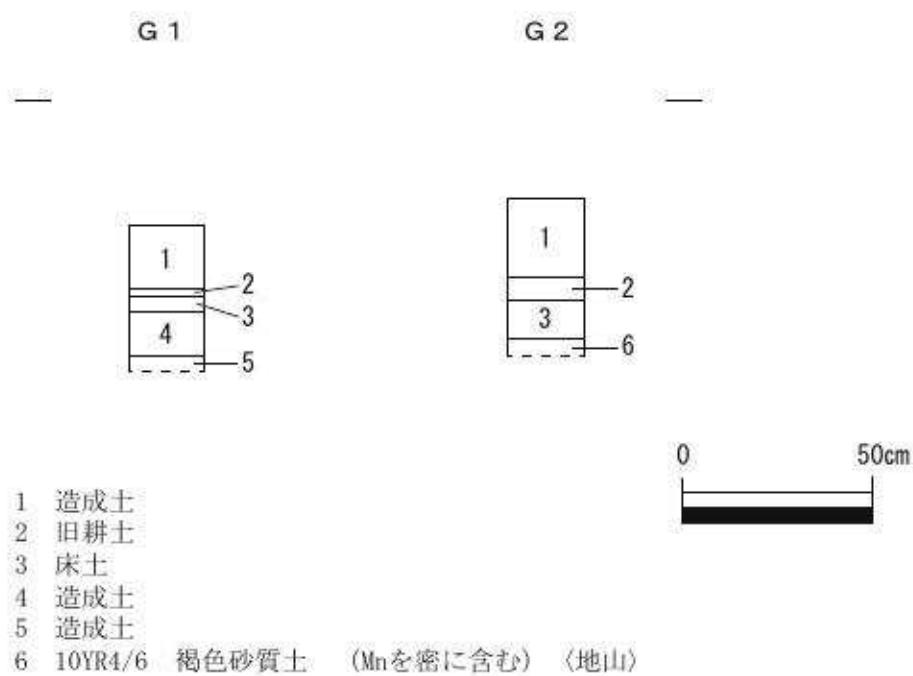


図58 北壁土層柱状図

第5節 鳥町遺跡

1 所在地

三木市鳥町字西畑 374 番 2

2 調査の原因

個人住宅の建替え工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成 28 年 12 月 13 日

6 調査面積

9 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1カ所に 3 m × 3 m の調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図 60・61）

当遺跡は、弥生時代中期～平安時代の集落跡とされている。

調査では、宅地造成時の盛土が確認できたのみで、工事掘削深度が地山面までには至らなかった。遺物も確認できなかった。

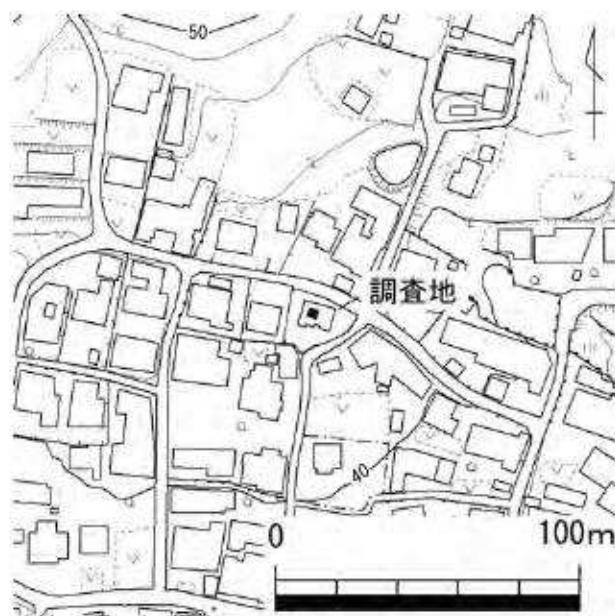


図 59 位置図

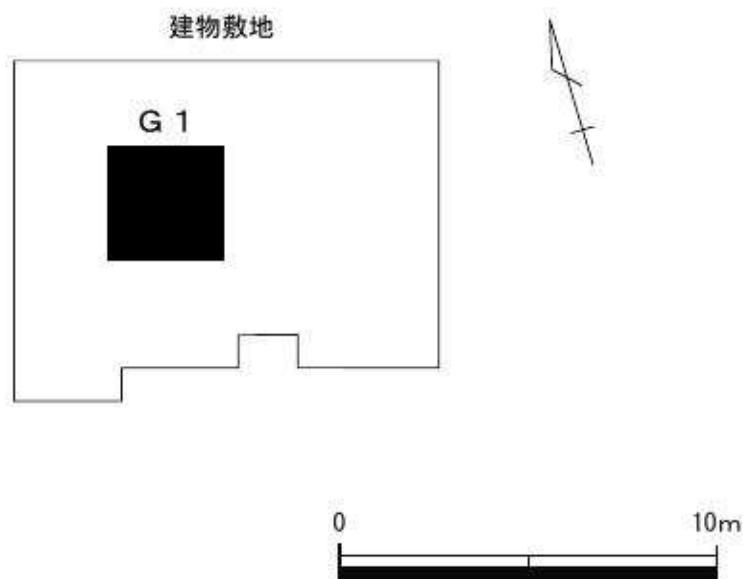


図60 グリッド配置図



図61 東壁土層柱状図

第6節 東這田前山散布地

1 所在地

三木市別所町東這田字前山 713
番4、713番1

2 調査の原因

個人住宅の建築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成29年3月12日

6 調査面積

4 m²

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1カ所に2m×2mの調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図63・64）

当遺跡は、平安時代の散布地とされている。

調査地は、斜面地の裾部に位置している。以前に斜面地を切土して宅地造成したものとみられる。層序は、表土直下に近現代とみられる客土があり、その下層がにぶい黄橙色粘質土と橙色砂礫の地山である。遺構・遺物は確認できなかった。

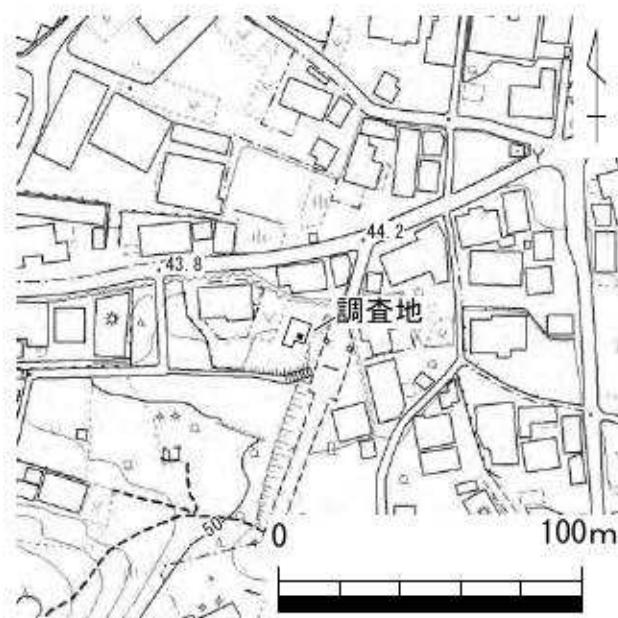


図62 位置図

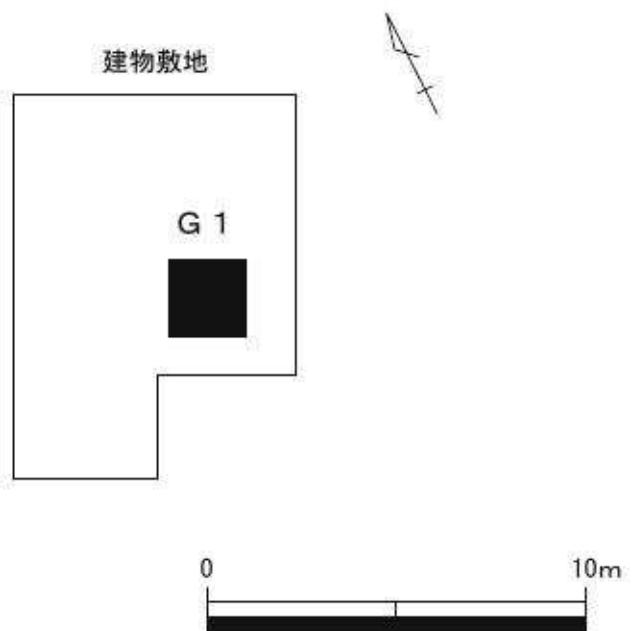


図63 グリッド位置図

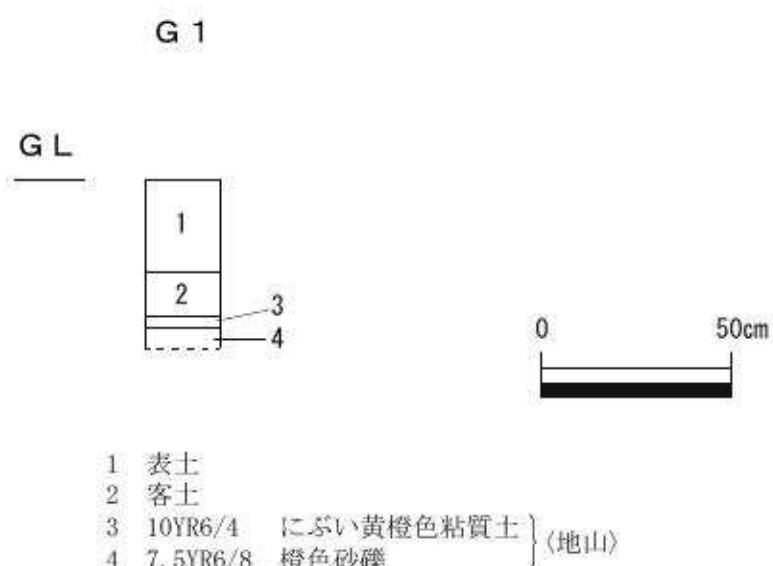


図64 東壁土層柱状図

〈参考文献〉

- 金松誠・廣井愛邦 2010 「三木城跡・付城跡群・多重土塁の発掘調査の成果」『三木城跡及び付城跡群総合調査報告書』三木市文化研究資料第 23 集
三木市教育委員会
- 岸本直文 2005 「三木市愛宕山古墳の測量調査」『前方後円墳の築造規格からみた古墳時代の政治的変動の研究』2001－2004 年度 科学研究費補助金（基礎研究 B）研究成果報告書 大阪市立大学大学院文学研究科
- 畠中英二 2007 「信楽汽車土瓶の編年と製作技法」『信楽汽車土瓶』 サンライズ出版
- 兵庫県教育委員会 2004 『兵庫津遺跡』 II 兵庫県文化財調査報告第 270 冊
- 三木市教育委員会 2001 『三木市遺跡分布地図－三木市内遺跡詳細分布調査報告書－』
三木市文化研究資料第 17 集
- 2012 『三木城跡及び付城跡群総合調査報告書 総括編』三木市文化研究資料第 25 集
- 2014 『大塚出張遺跡－特別養護老人ホームえびすの郷建設に伴う発掘調査報告書－』三木市文化研究資料第 27 集

図 版



調査前全景
(北から)



T1 北壁土層断面
(南から)



T2 南側完掘状況全景
(東から)



調査前全景（南から）



検出状況全景（北から）



北壁土層断面
(南から)



南壁土層断面
(北から)



調査区敷地全景
(北東から)



愛宕山古墳全景（西上空から）



T 1 全景（東から）



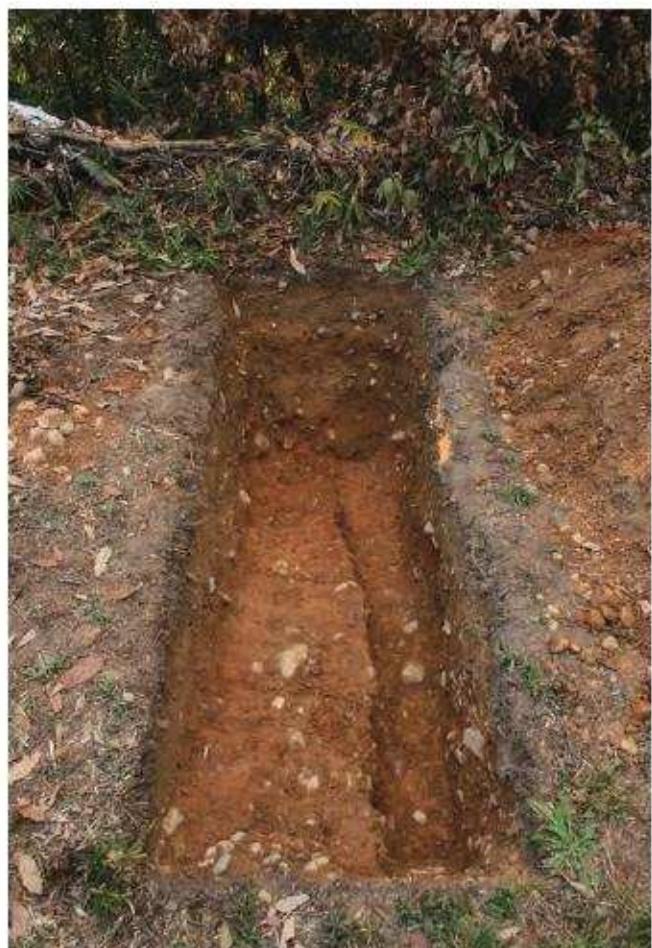
T 1 全景（西から）



T1 北壁土層断面（南東から）



T2 全景（西から）



T2 全景（東から）



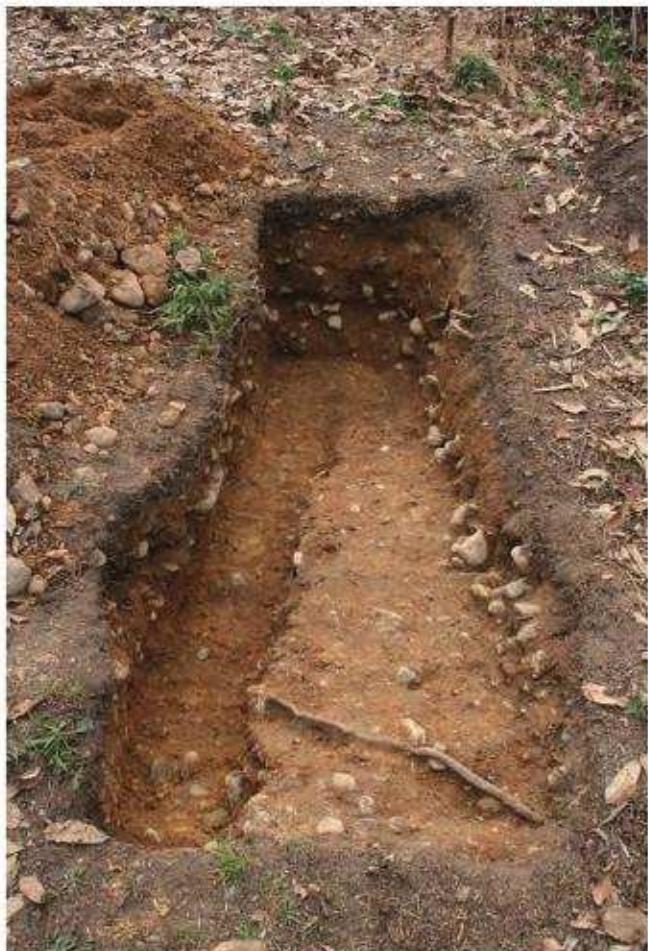
T 2 北壁土層断面
(南から)



T 2 ピット検出状況
(南から)



T 2 遠景 (南から)



T3 全景（北東から）



T3 全景（南西から）



T3 東壁土層断面（北西から）



T4 全景（南から）



T4 遠景（南から）



T4 東壁土層断面（西から）





T 3 全景（西から）



調査地全景（北東から）



調査前全景（西から）



T 1 全景（南から）



T 2 全景（南から）





G 2 P 1 半截状況
(南から)



工事立会風景
(北東から)



P 2 半截状況
(北西から)



調査前全景（北西から）



G 1 全景（南東から）



G 2 全景（北東から）



調査前全景（南から）



全景（北から）



全景（南から）



調査前全景（南東から）



南壁土層断面（北東から）



調査前風景（南東から）



G 1 西壁土層断面
(南東から)



G 2 東壁土層断面
(北西から)



調査前（西から）



搅乱検出状況
(西から)



搅乱検出状況
(東から)



溝検出状況
(西から)



溝完掘状況
(西から)



溝完掘状況
(東から)



西壁土層断面
(北東から)



東壁土層断面
(北西から)



北壁土層断面
(南西から)



西壁土壠土層断面
(東から)



土壠断ち割り状況
土層断面 (東から)



溝断ち割り状況
土層断面 (東から)



溝北・東壁土層断面
(南西から)



溝東壁土層断面（西から）



全景（南東から）





全景（南から）



南壁土層断面（北から）



東壁土層断面（南西から）



調査区全景（西から）



G 1 全景（北から）



G 2 全景（北から）





T 1 南壁土層断面
(北西から)



T 2 全景 (北東から)



T 2 南壁土層断面
(北西から)



T3 全景（西から）



T3 南壁土層断面（北から）



調査区全景（西から）



G 1 全景（南から）



G 2 全景（南から）



調査前全景（北から）



G 1 全景（西から）



調査前全景（南から）



G 1 全景（西から）

下石野5号墳（愛宕山古墳）



1



2

福井土墨H



1



2

大塚遺跡



1

報告書抄録

ふりがな	みきしまいぞうぶんかざいほくつちょうさほうこくしょへいせいにじゅうにからにじゅうはちねんびー
書名	三本市埋蔵文化財発掘調査報告書—平成22～28年度—
副書名	
巻次	
シリーズ名	三本市文化研究資料
シリーズ番号	第34集
編著者名	金松誠
編集機関	三本市教育委員会
所在地	〒673-0492 三本市上の丸町10番30号 TEL0794-82-2000
発行年月日	平成31年(西暦2019)3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みきじょうしんじょうあと 三木城新城跡	三本市上の丸町 875-35他	28215	160383	34° 79' 83"	134° 98' 90"	2010.7.19～ 2010.7.26	90m ²	個人住宅の新築工事
まきやかわせき跡 錦川館跡	三本市細川町高 築字山キワ 625・1153	28215	160806	34° 84' 10"	135° 03' 25"	2011.5.16	7.5m ²	個人住宅の建 築工事
じょじしょごう墳 下石野5号墳(愛宕山古墳)	三本市別所町下 石野字高山 826, 829, 831, 83 4	28215	160001	34° 80' 09"	134° 92' 56"	2011.12.19～ 2012.1.10	13m ²	散策路整備工 事
みきじょう 三木城跡	三本市上の丸町 9-4	28215	160380	34° 76' 66"	134° 98' 69"	2012.2.10	11m ²	写真撮影の新 築工事
じょじしょごう 石野堂ノ前散布地	三本市別所町石 野字堂ノ前 556, 557-3	28215	160043	34° 79' 27"	134° 94' 41"	2012.5.16	3.4m ²	個人住宅の増 築工事
じょじしょはいせき 下石野上畠遺跡	三本市別所町下 石野字上畠947 他	28215	160006	34° 79' 81"	134° 92' 63"	2013.3.27 2013.4.16	1.5m ² 51.5m ²	個人住宅の新 築工事
みきじょう 三木城跡	三本市上の丸町 7-4	28215	160380	34° 79' 90"	134° 98' 80"	2013.4.10	4m ²	個人住宅の建 替え工事
しろよし 左呂木背葉台7号墳	三本市与呂木字 高野越683-394	28215	160576	34° 80' 63"	135° 00' 95"	2013.9.25	3.9m ²	個人住宅の新 築工事
みきじょう 三木城跡	三本市上の丸町 940-3	28215	160380	34° 79' 66"	134° 99' 11"	2013.12.9	1.1m ²	個人住宅の建 替え工事
おおだに 大塚出張道跡	三本市大塚字出 張218-3他	28215	160391	34° 79' 98"	134° 99' 97"	2014.7.31	18m ²	服部病院の増 築工事
ふくいじょう 福井土塁H	三本市福井字宮 ノ前2372, 2373	28215	160349	34° 77' 78"	134° 99' 31"	2015.4.7～ 2015.4.30	50m ²	資材置場の整 備工事
おおだに 大塚遺跡	三本市大塚2丁 目308- 1, 315, 316- 1, 316-5	28215	160389	34° 79' 95"	134° 99' 75"	2015.11.25	8.6m ²	店舗の造成・ 建築工事

いし野田なかやまふるさと 石野田中散布地	三木市別所町石野字大道842-2	28215	160026	34° 79' 35"	134° 93' 43"	2016.6.13	3.15m ²	個人住宅の建築工事
いし野田なかやまふるさと 大村坊貝手散布地	三木市大村字坊貝手387-4、 395-2、399-1、 399-3	28215	160420	34° 80' 72"	134° 96' 81"	2016.8.10	8m ²	長屋住宅の新築工事
あさべかわ うえいせき 跡部川ノ上遺跡	跡部字川之上 58, 59, 60, 64, 66 , 68, 77, 94, 96, 9 7, 98, 100, 101, 1 02, 103	28215	160473	34° 81' 17"	134° 99' 05"	2016.10.31	10.5m ²	道路拡幅工事
よしだなかやまふるさと 吉田中ノ坪遺跡	三木市志染町吉田字泉258	28215	160607	34° 79' 79"	135° 01' 25"	2016.11.28	8m ²	事務所併用住宅の建築工事
いし野田なかやまふるさと 鳥町遺跡	三木市鳥町字西畑374-2	28215	160223	34° 80' 77"	134° 95' 40"	2016.12.13	9m ²	個人住宅の建築工事
いし野田なかやまふるさと 東道田前山散布地	別所町東道田字前山713-4, 713-1	28215	160058	34° 79' 08"	134° 95' 86"	2017.3.12	4m ²	個人住宅の建築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な構構	主な遺物	特記事項
三木城新城跡	城館跡	吸國時代	なし	なし	
細川館跡	城館跡	中世	なし	なし	
下石野5号墳（愛宕山古墳）	古墳	古墳時代前期	墳丘裾部	円筒埴輪	
三木城跡	城館跡	室町時代～江戸時代	なし	なし	
石野堂ノ前散布地	散布地	不明	なし	須恵器・土師器	
下石野上畠遺跡	散布地	奈良時代～平安時代	ピット	須恵器	
三木城跡	城館跡	室町時代～江戸時代	なし	なし	
与呂木青葉台7号墳	古墳	古墳時代後期	なし	なし	
三木城跡	城館跡	室町時代～江戸時代	なし	なし	
大塚出張遺跡	集落跡	飛鳥時代、平安時代	なし	なし	
福井土塙II	城館跡	吸國時代	土塙・溝	陶磁器	
大塚遺跡	散布地	奈良時代～平安時代初期	なし	須恵器・土師器	
石野田中散布地	散布地	奈良時代	なし	なし	
大村坊貝手散布地	散布地	平安時代	なし	なし	
跡部川ノ上遺跡	散布地	奈良時代	なし	なし	
吉田中ノ坪遺跡	散布地	弥生時代終末期～古墳時代後期	なし	なし	
鳥町遺跡	集落跡	弥生時代中期～平安時代	なし	なし	
東道田前山散布地	散布地	平安時代	なし	なし	

三木市文化研究資料 第34集

三木市埋蔵文化財発掘調査報告書
—平成22～28年度—

平成31年3月31日発行

編集・発行 三木市教育委員会

〒673-0492

兵庫県三木市上の丸町10番30号

印 刷 小野高速印刷株式会社

